

## 平成30年度研究・教育活動報告

### アーウィン マーク

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)
- (5) 教育, 地域連携等の活動
- (6) 研究・教育活動に関するコメント

### 相沢 直樹

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)

日本比較文学会2018年度東北大会

平成30年 (2018) 12月 1日 (土)

大学コンソーシアムやまがた ゆうキャンパス・ステーション (山形市香澄町)

研究発表とシンポジウム (スーパーバイザー)

- (5) 教育, 地域連携等の活動

授業:

ロシア語Ⅰ (2), ロシア語Ⅱ (2)

ロシア文化論, ロシア語講読, 時事ロシア語,

グローバル文学概論

社会活動:

「抱月・須磨子歿後百年」法要と奉納イベント

平成30年 (2018) 12月 8日 (土)

真言宗豊山派多聞院 (東京都新宿区弁天町)

企画・運営 (芸術座研究会)

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

### 赤倉 泉

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)

(5) 教育、地域連携等の活動

担当授業：専門教育：現代中国論、現代中国論演習

基盤教育：中国語

大学院：現代中国政治特論

地域連携等：研究室訪問（8／1山形県立新庄北高校）、学部紹介（10／5東北生活文化大学  
高校）、模擬講義（3／13福島東陵高校）、大学説明会（10／6仙台夢ナビライブ）

学内委員：広報委員会

(6) 研究・教育活動に関するコメント

**阿部 晃士**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

阿部晃士・堀籠義裕・茅野恒秀・金澤悠介・平井勇介，2018年12月、『復興に関する大船渡市民の意識調査——第3次横断調査 報告書』岩手県立大学総合政策学部震災復興研究会社会調査チーム。

(5) 教育、地域連携等の活動

（担当授業）

- 現代社会学演習，卒業論文（社会学正指導7名），社会調査法基礎，公共政策・地域課題実践演習A4，地域社会学，総合講座I（地域公共政策コース），専門基礎演習，意識調査から見る現代社会（基盤，社会学）（以上，山形大学）
- 調査の方法，計量社会学特別演習（山形大学大学院）
- 社会統計学（新潟大学人文学部）
- 社会学（米沢栄養大学）
- 社会学（山形医療技術専門学校）

（地域連携）

山形県統計専門研修（アンケート調査の企画・設計と集計・分析2018年9月）

山形県ライフスタイル研究会（座長）

宮城県地方統計職員業務研修（専門研修，アンケート調査の企画・設計及び集計・分析・公表，2019年2月）

長井高校模擬授業「社会学とは何か——廃棄物問題の分析から」（2018年11月）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、2つの科研費プロジェクトの最終年度となり、次年度に公表する成果をまとめた。山形県に加え、宮城県からも依頼があり、社会調査の適切な実施と利用について研修を行った。地域公共政策コースでの担当授業が始まり、近接領域の教員と連携しながら教育にあたった。

## 阿部 未央

### (1) 研究成果 (著書)

### (2) 研究成果 (論文)

- (論文)「働き方改革関連法と最高裁2判決から考える「公平な処遇の確保」」『山形大学法政論叢』第70・71号合併号45-87頁、山形大学法学会、2019年3月
- (判例評釈)「手当・休暇格差の労契法20条違反性 ー日本郵便事件・東京地裁平成29年9月14日判決」『平成29年度 重要判例解説』234-236頁、有斐閣、2018年4月

### (3) 研究成果 (学会発表)

- 「働き方改革関連法と最高裁2判決から考える「公正な処遇の確保」東北社会法研究会、2019年2月、東北大学
- 「イギリスにおける間接差別の認定手法—Essop v Home Office 事件貴族院判決および Nacem v Secretary of State for Justice 事件貴族院判決を素材として」イギリス労働法研究会、2018年9月、専修大学

### (4) 研究成果 (その他)

### (5) 教育、地域連携等の活動

#### 〈教育〉

基盤：少子化を考える

専門：労働法Ⅰ・Ⅱ、社会保障法、専門基礎演習、労働法演習、総合講座Ⅰ：公共政策（オムニバス）、総合講座Ⅱ：法律（オムニバス）

非常勤講師：東北大学法科大学院「ジェンダーと法」（分担）、東北学院大学法学部「社会保障法」「労働法Ⅲ」

#### 〈地域連携〉

- 外部講師 山形県トラック協会「働き方改革関連法のポイント」、2019年1月
- 山形県新企業懇話会と山形大学との交流懇談会、「働き方改革」のコメント、2019年1月
- 外部講師 放送大学「労働法の基礎」、2018年12月
- 外部講師 ワークルール検定（山形県）、2018年11月
- 外部講師 山形県産業短期大学「ワークルールについて」、2018年10月
- 東桜学館高等学校「未来創造プロジェクト」中間発表会研究アドバイザー、2018年10月
- 人文社会科学部公開講座「働き方改革と「長時間労働」」、2018年10月
- きやらか銀行マネジメントスクール「解雇、ハラスメント」、2018年6月
- 山形県労働局技術審査委員、委員長
- ワークルール検定研究検討会委員
- 山形県退職手当審査会
- 山形県労働委員会公益委員
- 山形県総合政策審議会委員
- 山形県行政不服審査会委員、副委員長
- 山形県衛生研究所倫理審査委員会委員

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

## 天野 尚樹

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）

「【ロシア極東と日本】第1回 北方領土「固有の領土」論という神話」『政治プレス新聞社』（平成31年3月18日）。

- (5) 教育，地域連携等の活動

山形県立鶴岡北高等学校出張講義（平成30年5月22日）

山形県立米沢東高等学校出張講義（平成30年10月16日）

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

平成30年度の研究活動は、令和元年度中に刊行予定の共編著4冊、英語論文1本などの執筆・編集にあてられた。

## 新宮 学

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
  - ・「近代山形最初の郷土史家、伊佐早謙の仕事」『西村山地域史の研究』36号 2-28頁 2018年9月30日
- (3) 研究成果（学会発表）
  - ・壬辰戦争期、上杉景勝に贈られた明服補子再考、2018年度、東北史学会大会東洋史部会 2018年10月7日 弘前大学
- (4) 研究成果（その他）
  - ・「講演要旨：地域からみた壬辰戦争—米沢市の上杉神社に残る明朝冠服を中心に—」（韓国語）『山形大学歴史・地理・人類学論集』20号、55-59頁、2019年3月
- (5) 教育，地域連携等の活動
  - ・模擬講義：大学で学ぶ「新しい世界史」2018年8月4日 山形大学オープンキャンパス
  - ・公開講座：「終戦直後、西川町に疎開した橋田壽賀子」2018年6月6日 西川町歴史文化学習会
  - ・教職免許状講習（高校地歴・中学社会）：「東アジアからみた世界史」2018年8月8日
- (6) 研究・教育活動に関するコメント
  - ・附属博物館館長として、10月に小白川図書館と共同で「山形大学における最上義光研究」を企画した。また関連企画として公開講座「山形大学の最上義光研究」を実施した。
  - ・文化システム専攻の院生1名の修士論文執筆を指導した。

## 池田 弘乃

- (1) 研究成果（著書）

井上達夫編『現代法哲学講義〔第2版〕』（2018年、信山社）に「家族の法からホームの権利へ——ジェンダー・親密圏・ケア」を寄稿（271-296頁）〔2009年出版の同書第1版に寄稿した原

稿を増補改訂したもの]

(2) 研究成果 (論文)

「ケア関係から見た婚姻制度の再検討に向けて」、『山形大学法政論叢』第70・71合併号 (北川忠明教授・高橋和教授・星野修教授 退職記念号)、2019年、241-262頁

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育、地域連携等の活動

【担当科目】

学部:スタートアップセミナー、総合講座Ⅱ (オムニバス)、私法入門、法哲学1、法哲学 (旧カリ)、法哲学演習

大学院:法哲学特論Ⅰ、法哲学特別演習

非常勤講師:東北大学法科大学院「ジェンダーと法」演習 (オムニバス)

【地域連携等】

山形県医療審議会委員 (2016年10月1日より継続中)、山形県建築士審査会委員 (2018年7月1日より継続中)、人文社会科学部公開講座「新聞記事で読み解く法律問題-法律って意外と面白いかも-」(第2回「性の平等」と日本社会)、ファースト大学講師 (山形市男女共同参画センター・ファースト)、『朝日新聞山形版』2019年3月28日25面「女性議員 なお厚い壁」(取材に応じコメントを寄せる)、大学説明会 (@酒田西高校、6月7日)、夢ナビライブ2018 (@東京ビッグサイト、7月14日)

【学内委員】

学部広報委員会

(6) 研究・教育活動に関するコメント

池田 光則

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育、地域連携等の活動

(a) 担当授業

- 学部専門教育科目:言語学概論, 言語学特殊講義, ラテン語1, ラテン語2
- 基盤共通教育科目:言語学概論 (言語学), 言語学とその周辺領域 (言語学), 英語
- 大学院:言語学特論, 言語学特別演習

(b) 出張講義

- 山形県立山形北高等学校 (2018年6月21日)

(c) その他

- 教員免許状更新講習 (2018年8月8日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

## 石澤 靖典

### (1) 研究成果（著書）

（編著）『成果報告書 シンポジウム 近代都市の相貌 — 明治山形の写真・絵画・建築』石澤靖典編、山形大学人文社会科学部附属映像文化研究所，2019年3月（担当：全体編集、「緒言」，1-3頁）

### (2) 研究成果（論文）

### (3) 研究成果（学会発表）

### (4) 研究成果（その他）

（コーディネーター、パネルディスカッション司会）シンポジウム「大正・昭和期における東北の写真文化」，山形大学人文学部附属映像文化研究所，2018年12月22日，山形大学人文社会科学部

### (5) 教育，地域連携等の活動

#### 〔担当授業〕

○学部専門科目：芸術文化概論，表象文化概論，美術史特殊講義 a，芸術文化基礎演習，芸術文化演習 a，芸術文化特殊講義 a，課題演習（芸術文化），芸術文化演習 b，表象文化演習，人間文化入門総合講義

○大学院科目：社会文化システム特論

○基盤教育科目：イタリア・ルネサンス美術 — 神と人のイメージ（人間を考える），西洋美術鑑賞入門

#### 〔卒論指導〕

6名担当（ドゥッチョ《莊嚴の聖母》—シエナの聖母子像を中心に、ティツィアーノ《ウルビーノのヴィーナス》の諸相、ヴァトー《シテル島の巡礼》について、C.D. フリードリヒ《海辺の修道士》と崇高、マネ《フォリー・ベルジェールのバー》について、クロード・モネ《サン＝ラザール駅》作品群における光と大気）

#### 〔公開講座〕

「記憶との対話：ことばとイメージ」，平成30年度山形大学公開講座〔人文社会科学部〕2018年6月4日－21日，山形大学人文社会科学部，運営・司会担当

#### 〔市民講座〕

○「ヨーロッパの宮廷美術と貴族の肖像」，2016年6月9日，NHK 文化センター郡山

○「バロックの風俗画 — 日常生活に秘められた「聖」と「俗」」，2018年11月23日，NHK 文化センター郡山

#### 〔学外委員〕

山形文化遺産活用事業実行委員会委員

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動としては、代表を務める科研費基盤研究Cの課題（ルネサンス美術研究）、および分担者となっている基盤研究Bの活動（近代東北写真史研究）を並行して進めたが、結果的に後者のシンポジウム開催と報告書の制作にウェイトをおく活動内容となった。

教育面では、学部における新カリキュラム開始にあわせ、これまでとは異なる授業運営が多く求められた。とくに基盤教育の基幹科目や課題演習におけるアクティブラーニング化に関しては試行錯誤の連続となり、意に満たなかった点も少なくない。反省点は次年度以降の授業運営に生

かしていきたい。

## 和泉田 保一

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

資料「マイクロプラスチック規制の国際動向」〈横大道聡慶応義塾大学教授との共著〉法政論叢70-71号 (2019) 263-295頁

(3) 研究成果 (学会発表)

「建築物の存在を適法とする法効果の所在をめぐる試論」(民主主義科学者協会法律分科会・春合宿報告、H31年3月)

「条例廃止処分取消請求控訴事件仙台高判平成29年6月23日」(東北大学公法判例研究会、H30年7月)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

### 教育

#### ・担当授業

行政法Ⅰ、行政法Ⅱ、行政法Ⅰ、行政法演習、総合講座Ⅰ (「条例による地域政策」)・Ⅱ (「行政法」)

#### ・地域連携活動

##### [審議会等委員]

山形県退職手当審査会委員 (H30年11月)

山形県公文書管理に関する条例制定検討委員会委員 (H30年11月～H31年3月)

全国健康保険協会山形支部評議委員 (議長) (H30年10月～)

鶴岡市新文化会館建設に関する第三者調査・検証委員 (H30年5月～11月)

山形大学人文社会科学部倫理審査会委員 (H30年4月～)

山形市都市振興公社評議員 (継続)

山形県情報公開・個人情報保護審査会委員 (継続)

山形県議会情報公開・個人情報保護審査会委員 (継続)

山形大学 COI 社会システム研究委員会委員 (継続)

山形市行政不服審査会委員 (継続)

上山市行政不服審査会委員 (継続)

上山市情報公開・個人情報保護審査会委員 (継続)

長井市行政不服審査会委員 (継続)

西置賜行政組合不服審査会委員 (継続)

##### [外部研修講師]

国土交通省北陸地方整備局職員研修「法律」(7月)

山形市役所職員研修「行政法」(9月)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

西塾章教授の喜寿記念論文集への執筆が最も大きな研究業績であるが、公刊がH31年4月となったので、ここには記載していない。

約1週間英国に滞在し、都市計画制度等についての討論会の聴講、エセックス大学での公法研究会への出席、ブリストルの計画審査庁での審査官への聴取調査等を行った。

年度末には、民主主義科学者協会法律部会において、前年度に執筆した2論文に関する報告を行い、貴重なご意見や指摘、示唆を得ることができた。

地域連携活動として、専門委員（地方自治法174条）として鶴岡市文化会館建設事業の検証、検討委員として山形県公文書管理条例制定に関わることができ、また、山形県個人情報保護・情報公開審査会委員として複数の困難な案件についての判断に参画することができ、行政法研究者としてこれまで積み上げてきた知見を一部なりとも社会に還元することができたものと自負する。

### 今村 真央

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）

「領土形成、フロンティア、世界史：国境研究の歴史的展開に向けて」ボーダースタディーズ研究会（山形大学小白川キャンパス、5月26日）

「宗教の中心と終焉：二項対立のモデル」（シンポジウム「境界から見るアジア」：東南アジア学会北海道・東北地区特別例会）（北海道大学、10月6日）

“Does Queer Theory Travel? The Case of Japan”、国際学会「LGBT Politics in Southeast Asia and Japan」（国立政治大学、台湾 10月28日）

Zomias Dry and Wet: Stateless Spaces in Mainland and Maritime Southeast Asia, 国際シンポジウム「Southeast Asia Studies Recontextualized」、東南アジア学会第100回研究大会（東京大学本郷キャンパス、12月1日）

“Traveling of `Frontier`: Translation of a Concept-Metaphor” 国際学会「A Space for Translation」（香港中文大学、12月12日）

「ミナハサのプロテスタント改宗について：コメント」、国際ワークショップ「植民地期ミナハサ（北スラウェシ）地方」（慶應義塾大学三田キャンパス、1月13日）

Buddhist Kachin (Jinghpaw) of India: What is the Significance of the Exception? 全米アジア学会（Association of Asian Studies Annual Conference）,（Denver, 3月23日）

- (4) 研究成果（その他）

科研プロジェクトでの研究会を3回（山形、東京、札幌）開催した。国外からも研究者を招聘した。

東南アジア学会北海道・東北地区理事として、特別例会を開催した。

- (5) 教育、地域連携等の活動

担当授業：基盤（人間を考える）、グローバル・プロブレマティーク演習、東南アジア地域論、国際協力論、東南アジア地域論演習、国際協力論演習、異文化コミュニケーションI（ミャンマー実習）、東南アジア地域論特別演習

教員向けの科研費勉強会において「科研申請書の書き方」の発表をした（小白川キャンパス、10月3日）。

国連の職員（ミャンマー担当）やフィリピン研究者を小白川キャンパスに招聘し、ミャンマー実習とフィリピン研修の広報や事前学習に貢献した（小白川キャンパス、7月と2月）。

韓国から映画監督を招聘し、山形国際ドキュメンタリー映画祭との共催で、小白川キャンパスにおいて公開映画上映会を催した（小白川キャンパス、1月）。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究成果は発表ばかりになってしまった。2017年度執筆した文章一本も、2018年度に執筆した文章も、出版が2019年度にずれ込んでしまったことが一因でもあるが、もっと執筆に時間を注ぐ必要があることを痛感する。5年続く科研プロジェクトの2年目以降の計画と、自身の執筆に関する具体的なプランを立てる必要がある。

数年ぶりに出席した全米アジア学会は新鮮であった。メインの国際学会としてこれからは定期的に参加したい。

東南アジア通史本の翻訳に多くの時間を注いだが、おそらく出版は2020年度となる。

教育面では「ミャンマー実習」に相当の時間を取られているが、毎年度開催の蓄積の効果に期待したい。将来的に「ミャンマー実習」は演習に、そして最終的には研究とも絡めていきたい。

ミャンマーとタイの提携校との覚書に関する作業に、十分に取り組みなかった点は反省点。両校には、山大に留学を夢見ている学生がいるので、できるだけ早く実現したい。

## 伊藤 晶文

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

伊藤晶文・小岩直人・松本秀明（2018）：宮城県井土浦海岸における2011年東北地方太平洋沖地震津波後の地形変化：DEM、SfM-MVSによるDSMおよび深淺測量データを用いた検討。地形, 39, 137-147.

Koiwa, N., Takahashi, M., Sugisawa, S., Ito, A., Matsumoto, H., Tanavud, C. and Goto, K. (2018): Barrier spit recovery following the 2004 Indian Ocean tsunami at Pakarang Cape, southwest Thailand. *Geomorphology*, 306, 314-324.

(3) 研究成果（学会発表）

伊藤晶文（2018）：ペルー、ナスカ台地における現在の地形変化と岩屑の移動（第2報）。2018年度東北地理学会秋季学術大会。

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

[担当授業]

環境動態概論、環境動態論特殊講義 a、環境動態論基礎演習、環境動態論演習、課題演習（環境動態論）、人間文化入門総合講義（分担）、自然地理学

[地域貢献]

治水地形分類（東北地区）判定委員会委員

宮城県環境影響評価技術審査会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

岩田 浩太郎

(1) 研究成果（著書）

- ・『山形県指定有形文化財 旧柏倉家住宅建造物調査報告書』（共著、第1章「柏倉九左衛門家の概要と歴史」担当執筆 [3～15頁]、中山町教育委員会、2018年11月）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

〔地域でのゼミナール発表会〕

- ・「井上栄助家について」（山形大学日本経済史〔岩田〕ゼミナール「井上栄助家の歴史」報告会、2019年1月24日、於中山町中央公民館）
- ・「岡村民の歴史と柏倉家Ⅱ」（柏倉九左衛門家ひなまつり2019イベント・山形大学日本経済史〔岩田〕ゼミナール発表会、2019年3月9日、於中山町岡地区文化交流センター大広間）

〔講演・講座〕

- ・中山町古文書解説・郷土史講座講師（「柏倉九左衛門家文書・紅花関係史料」2018年7月6日、於中山町中央公民館）
- ・「最上紅花と山形商人」（東京ふすま会第22回山形の集い講演、2018年9月22日、於キャンパスイノベーションセンター国際会議室〔山形大学東京サテライト〕）

(4) 研究成果（その他）

〔事典項目〕

- ・「民衆運動（打ちこわし）」（都市史学会編『日本都市史・建築史事典』（丸善出版、2018年11月）〔外部資金〕
- ・科学研究費補助金・基盤研究（C）「近世近代地方商人の経営と地域経済構造－宮城県村田町を事例に－」（研究代表者）、研究期間2015年4月～2019年3月。

〔文化財関係〕

- ・宮城県村田町旧大沼家住宅の国指定重要文化財申請・指定（2018年8月17日付官報告示・指定）への協力（村田町教育委員会へ大沼正七家歴史研究成果提供など）
- ・日本農業遺産「歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」」申請・認定（2019年2月15日農林水産大臣認定）への協力（山形県農林水産部園芸農業推進課へ江戸時代村山地方農家の紅花換地栽培（輪作）の歴史研究成果提供など）
- ・平成30年度農山漁村振興交付金活用事業・中山町紅花パンフレット『岡雨印の紅花』（黒塚のまちなみ保存活用協議会・中山町観光協会発行、2019年3月）執筆・編集
- ・宮城県村田町パンフレット『重要文化財 旧大沼家住宅』（村田町教育委員会・村田町歴史みらい館発行・2019年3月）作成に協力（村田町商人研究成果提供・原稿チェックなど）

(5) 教育、地域連携等の活動

〔担当授業科目〕

- ・基盤教育科目：基幹科目「歴史にみる共生」（共生を考える）

- 専門教育科目：日本経済史1・2、地域経済史、日本経済史演習、法経政策専門基礎演習、総合講座Ⅲ（オムニバス・1回分）
- 大学院教育科目：日本近世史特論Ⅰ、歴史文化特別研究Ⅱ  
〔委員会活動、その他〕
- 全学：研究活動に関する行動規範委員会委員、研究活動の不正行為に関する告発受付窓口の責任者
- 学部：経済・マネジメントコース代表（2017年4月～2019年3月。「事務一元化と予算に関する意見書」「事務一元化問題に対する意見書」など提出）、目標評価委員会委員（2016年11月～2019年3月。「英語民間試験に対する意見」など提出）、経済・マネジメントコース人事調整委員会委員、社会科学系運営委員会委員、共通問題作成検討ワーキンググループ委員、高校訪問重点校（仙台第三高等学校）担当、やまがた地域社会研究所所員
- 高校教員を対象とした山形大学説明会にて説明（2018年6月29日、於秋田市文化会館）  
〔社会活動〕
- 財団法人三浦新七博士記念会・三浦記念賞選考審査会審査員（2012年4月～）
- NPO 法人柏倉家文化村顧問（2006年～）
- 山形県中山町柏倉家住宅建物調査委員（2017年5月～）
- 山形県中山町柏倉家住宅保存・利活用検討会議委員（2017年7月～2019年3月。「柏倉家住宅保存・利活用基本計画」「柏倉家住宅保存・利活用実施計画」修正執筆）
- 山形県中山町柏倉家文書目録整理員（2018年2月～）
- 山形県中山町旧柏倉家住宅及び柏倉惣右衛門家住宅の建物調査への協力（資料提供など）
- 柏倉惣右衛門家の歴史民俗生活文化に関する聞き取り調査（中山町有志とともに）
- 山形県中山町岡地区の歴史民俗生活文化に関する聞き取り調査（中山町有志とともに）
- 山形県中山町岡地区の旧家文書調査依頼への対応
- 山形県中山町紅花保存会からの歴史事実問い合わせへの対応
- 山形美術館からの依頼により「横山華山」展覧会（於東京ステーションギャラリー・宮城県美術館・京都文化博物館〔巡回展〕）の作品解説に協力（「紅花屏風」の歴史知識提供など）
- 図録『横山華山 KAZAN A Superb Imagination at Work』（日本経済新聞社発行）への協力（「紅花屏風」に関わる歴史研究成果提供など）
- 山形美術館からの依頼により「寄贈50周年 長谷川コレクション展」（於山形美術館）の作品解説に協力（「紅花屏風」の歴史知識提供など）
- 山形商工会議所『商工月報』連載企画「日本一の紅花商人 長谷川家とその時代」への協力（資料提供・原稿チェックなど）
- 伊勢半本店紅ミュージアムの展示リニューアルへの協力（最上紅花・南仙紅花の歴史知識提供など）
- 奥羽史料調査会世話人（2002年～）
- 宮城県村田町伝統的建造物群保存地区保存審議会委員（2013年12月～）
- 宮城県村田町大沼正七家文書目録整理員（2016年4月～）
- 宮城県柴田町の旧家からの古文書保存・調査依頼への対応

- ・宮城県大河原町の旧家からの古文書保存・調査依頼への対応
- ・新潟県新潟市の旧家からの古文書調査依頼への対応
- ・「歴史文化を活かした町づくり」(『山形新聞』2018年4月2日付別刷・山形大学PR版)の編集に協力

(6) 研究・教育活動に関するコメント p

経済・マネジメントコース代表としての諸々の管理運営業務を担った。この任期2年間を通じて、とくに昇任人事・新規採用人事に関わる教員昇任計画書・教員採用計画書の作成・提出・申請・改稿・議論に力を注いだ。また、小白川キャンパスにおける事務組織一元化に対してその問題点を精査する質問・意見を提出した。目標評価委員会(研究活動推進部会・入試方法検討部会)委員としては、とくに英語民間試験の実態をふまえ入試導入の問題点につき議論をおこなった。

研究及び地域連携活動では、奥州仙台藩領村田商人に関する科研費の研究を継続したとともに、宮城県柴田郡村田町の旧大沼家住宅(大沼正七家)を重要文化財にすることに学術研究の面から協力し国指定を実現できた。また、山形県東村山郡中山町の旧柏倉家住宅(柏倉九左衛門家)の保存・利活用検討会議委員として、その保存・利活用基本計画案・実施計画案の審議に参加し修正執筆などの協力をおこない両計画を策定することができた。同時に『山形県指定有形文化財旧柏倉家住宅建造物調査報告書』のとりまとめに際して同家歴史研究部分を担当し執筆するとともに、建物調査部分についても普請関係古文書と歴史知識の提供などの協力をおこなった(報告書は文化庁へ提出)。さらに、大沼家文書や柏倉家文書など、各自治体や旧家から依頼を受けた古文書群の保存整理と目録作成を継続している。山形県農林水産部園芸農業推進課からの依頼を受けて最上紅花の江戸時代の栽培実態に関する私の研究成果を提供するなど「歴史と伝統がつなぐ山形の「最上紅花」」の日本農業遺産申請に協力し認定を得た。これら重要文化財指定や日本農業遺産認定に関連するパンフレットの執筆や作成協力をおこない、一般市民において歴史事実にもとづく文化財理解が進むように努めた。また、横山華山筆になる「紅花屏風」(山形県指定有形文化財)に描かれた図像の読み解きにつき独自の歴史研究成果・知識を美術館などに提供し展示会や図録作成を支援した。さらに、山形商工会議所『商工月報』誌上での山形商人長谷川家の連載企画につき依頼を受けて歴史研究成果提供や原稿チェックなどの協力を続けている。

教育活動では、2名の大学院生の指導教員(副)として大学院授業を担当し、彼らの修士学位論文審査(副)を務めた。学部の日本経済史ゼミでは中山町の岡村文書及び柏倉家文書の調査研究を継続した。例年通り、ゼミ共同研究論文の内容を年度末に岡地区で発表し地元住民の方々と議論した。とくに今回は旧岡村の全村民の個々の家々の歴史と経営のあり方につき研究成果を報告し、各ご家庭の「ファミリーヒストリー」を自らそれぞれ考えられていく契機として活用していただくことをねらいとした。多くの反響をいただきさらなる交流を深めつつある。また、ゼミ生は柏倉家ひなまつりボランティアに今年度も参加し実行委員会メンバーや観覧者と交流する貴重な経験を積むことができた。

宇津 まり子

- (1) 研究成果(著書)
- (2) 研究成果(論文)

宇津まり子「ケイジャン神話とケイト・ショパンのカディアン」『山形大学紀要人文科学』  
19.2 (2019) : 15-26

宇津まり子「エヴァンジェリンはケイジャンなのか」『英文学研究支部統合号』11 (2019) :  
83-86

- (3) 研究成果 (学会発表)
- (4) 研究成果 (その他)
- (5) 教育, 地域連携等の活動
- (6) 研究・教育活動に関するコメント

### 大久保 清朗

#### (1) 研究成果 (著書)

アンドレ・バザン研究会『アンドレ・バザン研究』第3号、山形大学人文社会科学部附属映像  
文化研究所 (代表)

#### (2) 研究成果 (論文)

- ・査読付き論文「尺八と人形浄瑠璃——『お国と五平』における成瀬巳喜男の音響演出」、『山形  
大学人文社会科学部研究年報』第16号、2019年2月、1-43 (132-90) 頁
- ・論文「誰もが誰かの共犯者」、河出書房新社編集部編『ヒッチコック』2018年11月。
- ・論文「アンブリンの星のもとで——スピルバーグ製作総指揮作品の時代」、『フィルムメーカー  
ズ18 スティーヴン・スピルバーグ』宮帯出版社、2019年2月、113-117頁

#### (3) 研究成果 (学会発表)

- ・講演「『浮雲』における声と時代」、市川市文学ミュージアム (千葉県市川市) にて (2018年、  
4月28日)
- ・講演「映画において愛はいかに描かれてきたか」東北税理士会集中講座講義、山形大学にて  
(2018年9月11日)
- ・研究発表「死を復元するということ——アンドレ・バザンにおけるドキュメンタリー映画論に  
ついて」、「映像表現における廃墟と死——A・バザンとA・クルーゲ」、日本大学文理学部7  
号館1階中文学科会議室にて (2018年10月28日)
- ・研究発表「劇場としてのドキュメンタリー」、「バザン、レリス、闘牛——映画『闘牛』の上映  
とワークショップ」、山形大学人文社会科学部1号館301教室にて (2018年11月11日)
- ・研究発表「忠実さをめぐって——フランソワ・トリュフォー「フランス映画のある種の傾向」  
におけるアダプテーション批判」、「アンドレ・バザン生誕100周年記念イベント②映画とアダ  
プテーション——アンドレ・バザンを中心に」、山形大学人文社会科学部1号館301教室にて  
(2018年12月20日)

#### (4) 研究成果 (その他)

- ・科研費 (基盤研究B)「アンドレ・バザンの映画批評の総合的再検討」(代表) 2017年 -2021年 (期  
間5年間の2年目)
- ・映画『闘牛』字幕制作
- ・コラム「底知れぬ怨念に戦慄——『ダーティハリー4』」、『山形新聞』2018年4月15日

- ・コラム「作り物に宿る存在感——『ビートルジュース』」、『山形新聞』2018年5月27日
- ・コラム「少年たちの美しき日常——『ゲーニーズ』」、『山形新聞』2018年7月8日
- ・コラム「心躍った灯台の描写——『ピートとドラゴン』」、『山形新聞』8月29日
- ・コラム「願えば往来できる世界——『オズ』」、『山形新聞』9月30日
- ・コラム「喜劇王に感じた寂しさ——『チャップリンのゴルフ狂時代』」、『山形新聞』11月11日
- ・コラム「役者の運命背負う男——『スペースキャンプ』」、『山形新聞』2018年12月23日
- ・コラム「『守護天使』と丁々発止——『ミッドナイト・ラン』」、『山形新聞』2019年3月3日
- ・エッセイ「繊細で不安定な脈動——ジョン・ウィリアムズ『ストーンナー』をめぐる」、『REPRE』第35号 <https://www.repre.org/repre/vol35/greeting/>
- ・レビュー「『フロリダ・プロジェクト』クロスレビュー」、『朝日新聞グローブ』2018年5月6日
- ・レビュー「『判決、ふたつの希望』クロスレビュー」2018年9月2日
- ・レビュー「『マチルド、翼を広げ』クロスレビュー」2019年1月6日
- ・レビュー「ベスト・テン」、『キネマ旬報』2019年2月下旬号
- ・書評「アニメーション理解のための必読書——西村智弘『日本のアニメーションはいかにして成立したのか』書評」、『キネマ旬報』2019年3月上旬号、174-175頁

(5) 教育、地域連携等の活動

- ・基盤共通科目で「フランス語Ⅰ」「フランス語Ⅱ」を担当
- ・専門科目で「映像学概論」「課題演習（映像学）」「フランス語講読」「留学事前演習」を担当。
- ・卒業論文指導で6名の学生を指導（テーマは東日本大震災に関するドキュメンタリー、ラース・フィン・トリアー論、ジョン・カーペンター論など）。
- ・人文社会科学部附属映像文化研究所副所長および映画部門部門長、同研究所内アンドレ・バザン研究会代表
- ・1年生のアドバイザー教員
- ・教員選考委員会（採用人事、行動科学）
- ・研究科運営委員会（大学院入試部会）（2年任期の1年目）
- ・人文社会科学部進路指導委員会（2年任期の1年目）
- ・全学部進路指導委員会（2年任期の1年目）
- ・全国コミュニティシネマ会議2018山形実行員会（2018年9月28日開催）
- ・表象文化論学会第13回研究発表集会実行委員会委員長（2018年11月10日開催）
- ・イベント「バザン、レリス、闘牛——映画『闘牛』の上映とワークショップ」企画実行（2018年11月11日）
- ・2018年秋季実用フランス語技能検定4級準会場試験監督（2018年11月18日開催）
- ・学生帯同会社訪問（2018年11月28日実施）
- ・イベント「アンドレ・バザン生誕100周年記念イベント②映画とアダプテーション——アンドレ・バザンを中心に」企画実行（2018年12月20日）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

科研での研究対象となっているアンドレ・バザンが生誕100年となり、東京のほか山形でも

海外におけるバザン研究第一人者であるアンドルー先生を招聘できたことは大きな意義があったと思う。研究活動としては、自らの専門領域で長く充実した論考が書けたことを喜びとする。また学内の語学教育の活動（フランス語）が文部科学大臣賞団体賞という形で評価されたことは励まされるものがあった。

## 大杉 尚之

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

- [共著論文] Osugi, T., & Murakami, I. (2019) Preview benefit survives a three-dimensional rotation of the rigid configuration of search items. *Vision Research*, 156, 56-65
- [共著論文] Hayashi, D., Iwasawa, H., Osugi, T., & Murakami, I. (2019) Feature-based attentional selection affects the perceived duration of a stimulus having two superposed patterns. *Vision Research*, 156, 46-55
- [単著論文] 大杉尚之 (in press) 分割呈示探索における視覚的印付け. *認知科学*

(3) 研究成果（学会発表）

- 大杉尚之・林大輔 演技場面における声質のステレオタイプに関する研究 日本心理学会第82会大会, 3AM-113, 宮城, (2018年9月) .
- 門馬なつみ・大杉尚之 ソーシャル・サポートと自己開示がレジリエンスに与える影響 日本ブリーフセラピー協会学術会議第10回大会, 神奈川, (2018年10月) .
- 大杉尚之 視覚的印付に伴う抑制が光点検出に及ぼす影響 日本基礎心理学会第37会大会, 1-23, 神奈川, (2018年12月) .

(4) 研究成果（その他）

- 2017年4月—2020年3月 文部省科学研究費補助金（若手研究B）「物体認識プロセスにおける視覚的注意の抑制機能の解明」（研究代表者 2年目）
- 平成30年度 YU-COE 「山形大学先進的研究拠点」（M）「地域社会における安心・安全に関する学際的研究拠点」（拠点リーダー）

(5) 教育、地域連携等の活動

[担当授業・学部]

認知心理学演習（前期・後期）、認知心理学基礎演習、心理学情報処理実習、心理学特殊実験、認知心理学特殊講義、心理学概論、データ処理演習

[担当授業・大学院]

実験心理学特別演習

[卒業論文]

1. 資料呈示が女子大学生の瘦身希求願望及び食行動異常に与える影響
2. 文章における共通語と大阪方言に対する顕在的態度の検討
3. 共通語での接客と方言での接客が顧客の購買意欲に及ぼす影響
4. 想起エピソードの感情価と観察者の表情の一致が気分一致効果に及ぼす影響
5. 口紅の色による印象評価の男女差及び表現媒体の関係

6. 自己と他者の手の視覚的処理過程—メンタルローテーション課題を用いた検討—
7. 向社会的行動と共感性の関係—自己肯定意識と信頼感を用いて—
8. 大学生における同性友人に対する期待—在来学生、編入学生、留学生の比較—
9. 公正さが対人魅力に及ぼす影響
10. フォントの反復接触が説得効果に及ぼす影響について

[出張講義・地域連携]

- 平成30年度 山形大学公開講座『記憶との対話:ことばとイメージ』での講演「題目 「エラー」と「バイアス」だらけの記憶 記憶と解釈の認知心理学」。(2018. 6. 8)
- 日本ゴム協会・ゴムの力学研究分科会での講演「題目 注意と見落としの実験心理学」。(2018. 6. 29)
- 山形大学オープンキャンパスの教室見学ツアーでの錯視のデモンストレーション。(2018. 8. 4)
- 宮城県泉高等学校への出張講義「認知心理学：心と脳とコンピューター」。(2018. 10. 3)
- 会津高等学校への出張講義「認知心理学：心のエラーを科学する」。(2018. 10. 20)
- 富谷高等学校の1年生の学生への模擬講義「認知心理学と知覚心理学」。(2018. 11. 7)

[地域連携]

地域社会における安心・安全に関する学際的研究拠点の研究プロジェクトとして近隣小学校の保護者の方と大学生を対象としたアンケートを行なった。

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

### 小笠原 奈菜

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）

[論文]

「デジタル遺品の相続性に関する条項への消費者契約法10条の適用可能性—ドイツ連邦通常裁判所2018年7月12日判決（Facebook 判決）を契機として—（1）」山形大学法政論叢70・71合併号89頁以下（山形大学法学会）（2019年3月刊行予定）

- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）

[その他]

「消費者の視点から見たNHK受信契約判決（最大判平成29年12月6日）」消費者法ニュース115号（消費者法ニュース発行会議）132頁以下（2018年4月）

[外部資金獲得]

科学研究費 基盤研究（C）「契約不適合に基づく減額請求規定の活用による消費者保護」（研究代表者）

公益財団法人民事紛争処理研究基金「WEBアクセシビリティの進展をめぐる民事責任に関する研究」（分担研究者）

- (5) 教育、地域連携等の活動

[担当授業科目]

- 専門教育科目:民法基礎 (契約法) (96名)、民法基礎 (総則) (80名)、民法基礎 (不法行為法) (68名)、法務実践演習 a (消費者法務実践) (10名)、契約法入門 (9名)、民法演習 (13名) (オムニバス方式) 総合講座 II (法律)

- 大学院:民法特論Ⅲ、経営法務特別研究Ⅱ (前期・後期)、主任 (1名担当)

[地域連携]

消費者市民ネットとうほく理事、検討委員

山形県消費生活審議会委員 (副委員長)

山形県公益認定等審議会委員

山形県個人情報保護運営審議会委員

山形県情報公開・提供の検証見直し第三者委員会委員

消費者市民ネットとうほく主催「ネットとうほく消費者被害事例ラボ」講師 (2018年11月)

東北税理士会夏季集中講座 講師 (2018年9月)

山形大学人文社会科学部公開講座「仮想通貨と消費者取引」(2018年10月)

大学模擬授業 (宮城県立白石高等学校) (2018年7月)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究については、論文1本、判例評釈1本を執筆することができた。消費者保護を目的とした科研費を獲得できたこともあり、平成30年度は研究対象が消費者問題となっている。口頭報告を1件も行なえなかったのが反省すべき点である。

地域連携について、適格消費者団体の理事として、特定適格消費者団体を目指し活動が続けるとともに、地域の方々への消費者問題の理解を深めるための講演をすることができた。山形県の各種委員会委員の業務も行った。

教育について、主担当教員として修論執筆指導を行なった。初めての経験だったが、良い修論を執筆することができ安心をした。卒論執筆学年の演習担当学生9名を含め計13名で演習を行なった。9名の卒論指導をするためにかなりの時間がとられた。平成32年度からは卒論が必修となるので、工夫が必要である。講義については、法務実践科目である「消費者法務実践」のプレ開講を行なった。熱心な受講者ばかりであったので問題なく行なえたが、新カリキュラムの必修科目として、やる気に欠ける学生にも積極的に参加してもらえるか不安が残るところである。

小幡 圭祐

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

「太政官三院制の成立過程—明治四年の制度取調—」(『明治維新史研究』16、2019年1月) 19-35頁 査読有

「熊谷岱蔵と戦時期東北帝国大学の事務改革—東北大学史料館所蔵式辞草稿の検討を中心に—」(『東北大学史料館紀要』14、2019年3月) 51-61頁

(3) 研究成果 (学会発表)

「柏原宏紀氏による拙著『井上馨と明治国家建設』書評へのリプライ」第82回内務省研究会 (慶應義塾大学 SGUP「日本型民主主義の歴史的構造分析」共催) 2018年4月14日

「熊谷岱蔵と戦時期東北帝国大学の研究体制構築」日本科学史学会第65回年会 2018年5月26日

「大隈重信の明治初年の政治戦略と「事務局」」明治維新史学会例会 2018年10月6日

「大久保利通と明治一〇年改革」2018年度東北史学会大会 2018年10月7日

「大久保利通と明治10年改革」第85回内務省研究会（基盤PJ研究推進プログラム〈安全〉「変革期の安全保障と統治構造」共催）2019年1月26日

(4) 研究成果（その他）

【外部資金】

「大久保政権」の研究」独立行政法人日本学術振興会：科学研究費助成事業（特別研究員奨励費）研究期間：2016年4月—2019年3月 代表者：小幡圭祐

「帝国大学における研究者の知的基盤に関する研究」文部科学省：科学研究費助成事業（基盤研究C）研究期間：2016年4月—2019年3月 代表者：吉葉恭行

「近世・近代行政組織における意思決定慣行と制度形成に関する研究」文部科学省：科学研究費助成事業（基盤研究C）研究期間：2017年4月—2020年3月 代表者：籠橋俊光

(5) 教育、地域連携等の活動

【教育】

「文化史」福島県立医科大学医学部非常勤講師（2017年4月—2019年3月）

【地域連携】

岩沼市史編集専門部会（近代・現代部会）調査執筆員（2012年10月—継続中）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

2019年3月に山形大学人文社会科学部に着任いたしました。着任後に出すことのできた成果はわずかですが、次年度からは研究に教育に頑張りたいと思います。

**柿並 良佑**

(1) 研究成果（著書）

〔共著〕松本卓也・山本圭編『〈つながり〉の現代思想 社会的紐帯をめぐる哲学・政治・精神分析』明石書店、2018年4月（担当箇所：第六章「特異性の方へ、特異性を発って」、161-200頁）。

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

« Figures de singularités (après la déconstruction) - Être, amour et politique chez Jean-Luc Nancy », Derrida Today, 6th Conference, Concordia University, May 26 2018.

「キリスト教の非／脱構築——アンリとナンシー、否認された出合い」、日本ミシェル・アンリ哲学会、第十回研究大会、シンポジウム「ミシェル・アンリと現代フランス哲学」、成城大学、2018年6月9日。

「断片の共同体——イエーナから〈われわれ〉へ」、日本シェリング協会、第27回大会、東京大学本郷キャンパス、クロス討論「ラクー＝ラバルト／ナンシー『文学的絶対』——フランス現代思想とドイツ初期ロマン主義の邂逅」、2018年7月7日。

« L'acte de foi et/ou une foi en acte », "Thinking With Jean-Luc Nancy", Oxford International

Conference 28th March to 30th March 2019 at Balliol College, Oxford, 30th March 2019.

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

2018年度文部科学大臣賞団体賞 (実用フランス語技能検定試験)

池田弘乃 & 松本大理 & 柿並良佑「知を愛する「哲学」に学ぶ 疑う思慮と立ち止まる力。」、『みどり樹』、Autumn 2018, 74号、「研究するひと #15」

平成30年度山形大学公開講座 (人文社会科学部)「記憶との対話: ことばとイメージ」2018年6月21日、第5回「記憶を創る、記憶が創る」

(6) 研究・教育活動に関するコメント

### 加藤 健司

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

ヴィーラントのルキアノス翻訳 — 『神々の対話』脚註の機能 : 「東北ドイツ文学研究」第59号 S.1-18 2018年12月 (査読あり)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

(6) 研究・教育活動に関するコメント

### 兼子 良久

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

渡部、宮原、渡部、土屋、兼子: 国際異文化ビジネスの進展~日本から台湾に進出した「うどん」企業を事例として~, 宮城学院女子大学「人文社会科学論叢」第28号 p.87~ p.100, 2019年3月

(3) 研究成果 (学会発表)

- 兼子良久: フリーミアム課金方式に関する考察—無料版が有料版の価値評価に与える影響—, 経営行動研究学会第28回全国大会 (於日本大学), 2018年8月
- 兼子良久: 従量料金と定額料金の高低判断に関する考察, 日本消費者行動研究学会第57回消費者行動研究コンファレンス (於同志社大学), 2018年10月
- 兼子良久: 価格競争発生の背景とその回避に関して, 台湾・淡江大学日本政経研究所国際会議 (於淡江大学), 2018年12月
- 兼子良久: 消費者の価格感度に対するコントリー・オブ・オリジンの影響—消費者セグメンテーション視点からの考察—, 台湾日本語言文藝研究学会第18回定例学会 (於長栄大学), 2018年12月

(4) 研究成果 (その他)

科学研究費補助金・基盤研究 (C)「課金方式が消費者行動に与える影響に関する研究」(研究

代表者)

(5) 教育, 地域連携等の活動

〈担当授業〉

マーケティング a、マーケティング b、マーケティング演習、共生マーケティング (基盤教育科目)、マーケティングの基礎を学ぶ (基盤教育科目)

〈地域連携〉

「外食事業等と連携した畜産物の需要拡大対策事業」蔵王チーズ産学連携推進委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

基盤研究 (C) に関して研究成果を順次発表した。

### 川村 一義

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

【担当科目】

公共政策学 1・2、政治過程論 1・2、公共政策学演習、政治学入門、総合講座 I (分担)、公共政策・地域課題実践演習 A 2 (分担)

【地域連携等】

○山形県尾花沢市総合戦略検証委員会 委員

○山形県庄内町議選に関する取材協力 (山形新聞, 読売新聞, NHK, 産経新聞, さくらんぼテレビジョン, 共同通信, 朝日新聞)

○山形県尾花沢市長選に関する取材協力 (河北新報)

○平成30年度 北海道・東北六県議会議員研究交流大会 アドバイザー

(6) 研究・教育活動に関するコメント

### 許 時嘉

(1) 研究成果 (著書)

(共著)『戦後日本の〈帝国〉経験——断裂し重なり合う歴史と対峙する』(第二章「漢詩人の越境と帝国「協力」——初山衣洲の台湾体験を例として」執筆)、青弓社、2018年。(査読有)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

「被植民者からみた排日移民法—『台湾民報』を中心に」、日本比較文学会東北支部第18回比較文学研究会 (仙台市)、2018年7月28日。

「1920年代台湾人的「亞細亞」意識——從美國排日移民法的影響談起」、開放的台湾史研究会 (台北市)、2019年3月29日。

(4) 研究成果 (その他)

【書評】「清地ゆき子『近代訳語の受容と変容—民国期の恋愛用語を中心に』」『比較文化』61巻、2019年【依頼原稿、査読無】

(5) 教育、地域連携等の活動

【担当授業】中国語Ⅰ、中国語Ⅱ、近現代中国文化概論、アジア文化演習、グローバルプロブレマティーク基礎演習、留学事前演習、中国文学特殊講義 a (共同担当)、東アジア近現代文化特別演習、東アジア近現代文化特論

【卒論・修論指導】2018年度卒論(正)3名、修論(正)1名(副)1名

【出張講義】鶴岡南高校、「台湾のエスニシティ問題：台湾の歴史と文化を考える」、2018年10月4日

【外部委員】山形県立博物館協議会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

清塚 邦彦

(1) 研究成果(著書)

(2) 研究成果(論文)

- ・グライスの意味理論における「自然的意味」の位置づけについて、山形大学人文社会科学部研究年報、第16号、1-29頁、2019年2月28日。

(3) 研究成果(学会発表)

(4) 研究成果(その他)

その他の研究活動

日本科学哲学会 評議員

東北哲学会 委員

(5) 教育、地域連携等の活動

(a) 担当授業

(基盤教育)

「哲学ってどんなこと? (哲学)」(前期)

(専門教育)

「哲学概論」(前期)、「哲学特殊講義」(後期)、「哲学基礎演習」(前期)、「哲学演習」(前期・後期)

(大学院)

「英米哲学特論Ⅰ」(前期)、「英米哲学特別演習」(後期)、「思想文化特別研究Ⅰ」(前期・後期)

(\*) 卒論指導担当 正7名 副3名

(b) 地域連携

- ・2018年12月15日 山形県探究型学習課題研究発表会(ビックウィング)に来賓として参加。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

## 小泉 有紀子

### (1) 研究成果（著書）

### (2) 研究成果（論文）

Koizumi, Y. (2018). Non-syntactic factors in the processing of the Spanish no-porque sentences -initial results-. IEICE Technical Report（電子情報通信学会技術研究報告）, Vol.118, No.163. pp.77-81.

### (3) 研究成果（学会発表）

Koizumi, Y. (2018). 'Non-syntactic factors in the processing of the Spanish 'no-porque' sentences: initial results,' Poster Presented at MAPLL x TCP x TL 2018: Mental Architecture for Processing and Learning of Language (MAPLL), Tokyo Conference on Psycholinguistics (TCP), and the technical group of thought and language of the Institute of Electronics, Information and Communication Engineers (TL), Tokyo.

Koizumi, Y. (2019). 'Can the L2 learners access prosodic cues in the resolution of the negation and the 'because' clause scope ambiguity?'

Invited Talk at Language Science Faculty Meeting, Rochester Institute of Technology

Rochester, NY, USA.

### (4) 研究成果（その他）

### (5) 教育、地域連携等の活動

#### 研修会講師・講演

- ・「探究型学習推進講座Ⅱ～教科等における探究型学習の授業づくり～」【英語】講師  
山形県教育センター．2018年7月．
- ・Student-Centered Learning と 探究型学習 ～英語の授業づくりにおける活用例～ 山形県英語教育研究会 最上地区 H30年度研究会「生徒中心の言語活動の指導のあり方について」2018年11月．
- ・学部授業「Introduction to Syntax」および「日本留学に関する座談会」招待講師．米国ロチェスター工科大学．2019年3月．

#### 担当授業

- ・基盤教育：コミュニケーション英語スピーキング、ライティング
- ・専門教育：実践英語 ab 英語学演習 b グローバル・スタディーズ基礎講義 異文化間コミュニケーション1（オーストラリア）引率．
- ・大学院：心理言語学特論 心理言語学特別演習

#### 委員会等

- ・学部教育委員会
- ・基盤共通教育英語運営部会

#### 地域連携活動

- ・山形県英語教育研究会 東南置賜地区 中学校高等学校英語弁論大会平成30年度審査委員長．

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

公私ともに慌ただしい年でしたが、卒業論文指導と並行して自らの研究を進めることや、研修会講師等を通じて地域の英語教員との交流もはかるといった機会も得ることができました。

## 合田 陽祐

### (1) 研究成果 (著書)

(共著) 合田陽祐「ジャリと風景の再構築——『昼と夜』における知覚と表象の関係を中心に」、『象徴主義と〈風景〉：ボードレールからブルーストまで』(坂巻康司ほか編)、水声社、2018年10月、298～325ページ、ISBN:978-4-8010-0375-0

### (2) 研究成果 (論文)

合田陽祐「アルフレッド・ジャリの『超男性』再読——語りの観点から」、『人文社会学部研究年報』、山形大学、第16号、2019年2月、61-79ページ

### (3) 研究成果 (学会発表)

- ① 合田陽祐「カルチエ・ラタンからモンマルトルへ——ジャリから見る1890年代パリの文学場」、『マラルメ・シンポジウム2018』、代表:中畑寛之氏・大出敦氏、於慶應義塾大学日吉キャンパス、2018年9月8日
- ② 合田陽祐「ボナールと「見させる」絵画——象徴主義の時代を中心に」、表象文化論学会ワークショップ「ボナールの絵画をめぐる冒険」パネル企画、於山形大学小白川キャンパス、2018年11月10日

### (4) 研究成果 (その他)

合田陽祐「フェミニズム批評のどこが問題なのか——批評家と教育者のあいだを往還するクラウド」(ロザリンド・クラウド『独身者たち』(平凡社)書評)、『図書新聞』、第3382号、2019年1月12日

### (5) 教育、地域連携等の活動

#### (受賞)

文部科学大臣賞団体賞(フランス語教育振興、仏検の受験者数増加、地域貢献に対して)、於東京日仏会館、APEF / 公益財団法人フランス語教育振興協会主催、2019年3月22日

#### (教育)

- ① 2018年度秋期より、山形大学小白川キャンパスで仏検の団体受験を開始した。当日は大久保清朗先生と協力し、会場設営、受付、試験監督などをおこなった。本学の受験者のうち60名が同キャンパスの会場で受験した(2018年11月18日)
- ② 「国際化推進事業支援プログラム」の支援を受け、全学を対象に「2018年度フランス語暗唱コンクール」を行い、留学生との国際交流と外国語会話能力の向上に努め、一定の成果を得た(2018年12月21日実施)

#### (地域連携)

合田陽祐「いかにして記憶はアートになるか——クリスチャン・ボルタンスキーの場合」、公開講座「記憶との対話 ことばとイメージ」、於山形大学小白川キャンパス、2018年6月18日

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

#### (研究)

科研費(若手研究(B))の3年目(最終年度)の調査・研究・報告を行った。「マラルメ・シンポジウム」や「ボナール・ワークショップ」での研究発表はいずれも好評を博した

#### (教育)

- ① 新潟市で2019年1月26日に開催された「第10回新潟フランス語スピーチコンテスト」において、私の指導する学生（3年生）が「フリースピーチ部門」で準優勝の成績をおさめた
- ② 私が担当するクラスから、仏検4級全国1位（満点）の成績をあげた学生2名が、APEF／公益財団法人フランス語教育振興協会から個人表彰された（於東京日仏会館、2019年3月22日）
- ③ 2018年前期までに留学事前演習を受講した3名の学生（3年生）が交換留学を終え、無事カナダ・モントリオール市とフランス・アンジェ市から帰国した。2019年度はモントリオール市に3名（3年生）と、アンジェ市に2名の学生（1年生）が留学予定
- ④ 2019年2月中旬から3月下旬にかけて、フランスのリヨンとモンペリエでの語学研修（ホームステイ）に、私が担当する6名の学生（1年生）が参加した。現地で進捗具合を聞き、一定以上の効果を上げることができたとの報告を受けた。帰国後に現地の語学学校で学んだ内容に即して単位認定を行う

#### コーエンズ 久美子

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
  - (1) 「証券の間接保有における投資者のリスクと分散型台帳技術の利用について・序説」  
『澤田壽夫先生追悼 国際取引の現代的課題と法』（2018年4月）  
379頁～401頁
  - (2) 「将来債権譲渡における譲渡債権の特定性と対抗要件」  
登記情報688号（2019年3月）60頁～68頁
- (3) 研究成果（学会発表）
  - (1) BEYOND INTERMEDIATION: A NEW (FINTECH) MODEL FOR SECURITIES HOLDING INFRASTRUCTURES  
Kumiko Koens & Charles W. Mooney  
IMES, Bank of Japan (July 2, 2018)
  - (2) SECURED TRANSACTIONS LAW REFORM: GLOBALLY AND IN JAPAN  
Panel3: Situation of Business Credit (Including Asset Based Lending) in Japan  
西村あさひ法律事務所（平成30年7月30日、31日）  
パネリストおよび事務局。
  - (3) Private University Research Branding Project: Comprehensive Analysis of Diversity of Legal Systems in Asia-Pacific Region and Convergence towards Establishment of Rule of Law  
Workshop: Change of Contract Management- ""Cultural Difference"" Useful for Comparative Analysis?  
中央大学（私立大学研究ブランディング事業）November 26, 2018  
日本における継続的取引についての報告
- (4) 「企業金融の実態に関する学術調査」  
Charles W. Mooney 原恵美 コーエンズ久美子

日本司法書士連合会主催ワークショップ (平成30年2月27日)

(5) Private University Research Branding Project: Comprehensive Analysis of Diversity of Legal Systems in Asia-Pacific Region and Convergence towards Establishment of Rule of Law

Workshop on Comprehensive Analysis of Diversity of Legal Systems in Asia-Pacific Region and Convergence towards Establishment of Rules of Law; Three Years Progress

中央大学 (私立大学研究ブランディング事業) March 9, 2019

'Symbolic Corporate Culture and Practice: Japanese Trade Custom?' 報告

(4) 研究成果 (その他)

消費者法情報『現代消費者法』41号 (平成30年12月)

86頁～87頁

(5) 教育、地域連携等の活動

[担当授業] 基盤教育基幹科目 (共生を考える)、会社法、商法、商法演習、国際取引マネジメント論 (理工学研究科)

[地域連携活動] 山形地方最低賃金審議会公益委員、山形県指定管理者選定委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

分散型台帳技術を利用した権利移転システムの法規制について、学外研究者と連携しながら研究を進めている。また、担保法に関する研究については、西村あさひ法律事務所において海外研究者を招聘し、シンポジウムを開催することができた。現在、これまでの実態調査を踏まえた論文について共同研究者と分析を進めているところである。

## 小林 正法

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

真田原行・小林正法・大竹恵子・片山順一 (印刷中) . 感情喚起下における生理反応の時系列相互相関—前頭脳波  $\alpha$  パワー左右差と心拍数を指標として— 感情心理学研究

小林正法・大竹恵子 (2018). 主観的幸福感と抑うつ傾向がノスタルジア状態の喚起に与える影響：音楽によるノスタルジア状態の喚起を用いて パーソナリティ研究, 27, 155-158

(3) 研究成果 (学会発表)

小林正法 (2018, 9月) . ポジティブ感情を支える諸要因：過去・現在・未来から見た役割, 第82回日本心理学会大会

小林正法 (2018, 9月) . エピソード記憶記憶の新展開, 第16回日本認知心理学会大会

小林正法・大竹恵子 (2018年, 9月) ノスタルジアは外集団顔の信頼性評価を高める, 第82回日本心理学会大会, 宮城

小國龍治・小林正法・大竹恵子 (2018年, 9月) 想像は援助動機を高める, 第82回日本心理学会大会, 宮城

小林正法・上野泰治・川口潤 (2018年, 9月) 系列記憶の検索誘導性忘却：事前登録による実証, 第16回日本認知心理学会大会, 大阪

小林正法・大竹恵子 (2018, 6月) 喫煙に対する潜在的・顕在的態度とその変容可能性, 日本

健康心理学会第31回大会, 京都. 大会優秀発表賞 (若手奨励部門)

小國龍治・小林正法・大竹恵子 (2018, 6月) エピソードシミュレーションが援助効力感に及ぼす影響—時間的距離に焦点を当てて—, 日本健康心理学会第31回大会, 京都.

Kobayashi, M., Ueno, T., & Kawaguchi, J. (2018, Nov) Retrieval-induced forgetting of serial order memory: Pre-registered investigation, Psychonomic Society's 59th Annual Meeting, New Orleans, USA.

Oguni, R., Kobayashi, M., & Otake, K. (2018, Nov) Imagination enhances helping intention: The role of helping efficacy, OPAM26, New Orleans, USA.

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

(6) 研究・教育活動に関するコメント

感情に関する研究として, ポジティブ感情やノスタルジア (懐かしさ) についてを実施してきました。また, 記憶研究としては, 検索誘導性忘却やエピソードシミュレーションといったエピソード記憶が持つ機能に着目した研究を行って参りました。

## 是川 晴彦

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

[科研費研究成果報告書]

中心市街地における戦略的経済行動分析 (研究代表者)

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

ミクロ経済学1, ミクロ経済学2, ミクロ経済学3, 公共経済学, ミクロ経済学演習, 公共経済学特論, 公共経済学特別演習

[地域貢献活動など]

- ・山形県 (産業構造審議会委員, 入札監視委員会委員長, 未来の産業研究会座長, 教育庁第三者委員会座長)・山形市 (行財政改革推進懇話会座長, 消費生活審議会会長, 連携中枢都市圏ビジョン懇談会座長)・天童市 (天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略会議委員, 天童市振興審議会委員)・寒河江市 (さがえ未来創生戦略に係る外部有識者会議座長, 振興審議会会長)・東北地方整備局入札監視委員・山形県長寿医療懇談会会長・きらやかマネジメントスクールの企画・運営および講義担当

- ・自治体等からの委託事業の取りまとめ (やまがた地域社会研究所)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費研究 (中心市街地活性化に関する研究) では, これまでの調査研究をとりまとめ, 研究成果報告書を作成した。

やまがた地域社会研究所としては, 研究所のメンバーの協力のもとで国道347号通行の受託研究の成果報告書を作成したほか, 地域連携事業を継続的に実施した

教育面では、新カリキュラムに対応した講義資料の作成を行った。特に、ミクロ経済学は1と2に分割されたため、内容や講義順序を大幅に見直し、受講生がミクロ経済学の主要な理論や考え方を段階的に学べるように工夫した。また、ミクロ経済学は他の経済学科目と関連性が強いことを考慮し、余剰概念など他の経済学科目で活用される概念の解説に重点をおいた。

大学院教育では、正指導教員として大学院生の修士論文作成の指導を行った。

#### 今野 健一

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
  - 学会報告「教育の無償制の諸論点」(2018. 6. 3) (日本教育法学会第48回定期総会・分科会報告、東北学院大学)
  - 研究会報告「教育基本法第16条1項について」(2018. 9. 23) (日本教育法学会50周年出版事業執筆者会議、桜美林大学)
- (4) 研究成果 (その他)
- (5) 教育, 地域連携等の活動
  - 教育
    - 専門科目: 憲法1、憲法2、教育法、憲法演習Ⅱ、総合講座Ⅱ
    - 基盤科目: 日本国憲法、基幹科目 (共生を考える)
  - 地域連携等
    - 山形市情報公開・個人情報保護審査会委員、山形県後期高齢者医療広域連合情報公開・個人情報保護審査会委員、山形県広域環境事務組合情報公開・個人情報保護審査会委員
- (6) 研究・教育活動に関するコメント

研究については、教育法学の研究課題について学会および研究会で報告を行った。大震災に関する科研費課題 (分担研究者として参加) のための被災地訪問にも引き続き注力した。教育面では、質問カードで学生の疑問をこまめに引き出し、詳細な書面を作成してこれに応答することにより、学生の理解促進と学習意欲の向上に努めた。専門演習では、4年生の卒業研究論文 (ゼミ論) の指導を継続的に行い、最終的に論文集として取りまとめた。

#### 坂本 直樹

- (1) 研究成果 (著書)
- (2) 研究成果 (論文)
- (3) 研究成果 (学会発表)
  - 坂本直樹: 過去の観光体験を考慮した訪問需要関数による観光資源の経済評価, 日本計画行政学会第41回全国大会, 福岡大学, 2018. 9. 8.
  - 坂本直樹・瀧本太郎: Tax, spend, and political support rates in Japan, 日本応用経済学会2018年度秋季大会, 大東文化大学, 2018. 10. 27.
  - 坂本直樹・生川雅紀: 心肺停止傷病者の救急搬送時間短縮による

生存率・社会復帰率の改善便益の計測，2018年度応用地域学会研究発表大会，南山大学，2018.  
12. 2.

- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育，地域連携等の活動
- (6) 研究・教育活動に関するコメント

#### 佐藤 清人

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育，地域連携等の活動
  - 【基盤教育】総合英語
  - 【専門教育】英米文学講読
  - 【大学院】英米近代文化論特論、英米近代文化論特別演習、欧米文化特別研究
- (6) 研究・教育活動に関するコメント
  - 日系アメリカ文学の未来と展望に関する研究を行っている

#### 下平 裕之

- (1) 研究成果（著書）
  - 西沢保、平井俊顕（編）『ケンブリッジ 知の探訪：経済学・哲学・文芸』ミネルヴァ書房，2018年（第6章 ケンブリッジ学派の景気循環論執筆）
- (2) 研究成果（論文）
  - Atsushi KOMINE, Hiroyuki SHIMODAIRA, “Keynesian Elements in Beveridge’s Free Society (1944): A Text Mining Approach to the History of Economic Thought”, Discussion Paper Series (Ryukoku University), No. 18-01, 2018.
- (3) 研究成果（学会発表）
  - 下平裕之「新聞記事に見る復興まちづくりの推移と課題」第39回経済学史学会東北部会，2018年4月14日，東北大学.
- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育，地域連携等の活動
  - 教育活動
    - 山形大学における担当授業：
      - [学部] 経済思想，経済学史，経済学史演習，地域づくり特別演習
      - [大学院] イギリス経済学史特論・特別研究
      - [基盤教育] Jリーグと地域社会
    - 非常勤：放送大学（客員教授），羽陽短期大学（経済学），東北文教大学（地域と観光）
    - その他：基盤共通教育基幹科目部門長、地域創生教育センター長

• 地域連携活動

山形財務事務所財務モニター

山形大学まちづくり研究所・山形仙台圏交流研究会への参加

山形大学東北創生研究所・社会創生研究部門長

平成30年度やまがた若者チャレンジ応援事業審査委員長

山形県職業能力開発審議会会長

山形県公共事業評価監視委員会委員

市民向け講演会（山形市，鶴岡市）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

主研究の一つであるイギリス・ケンブリッジ学派の景気循環理論について、共著を刊行した。また科研費（基盤研究（B））による「テキストマイニングによる経済学の大衆への普及のプロセス研究」というテーマで引き続き研究を進め、今年度は英文ディスカッションペーパーの形で成果を刊行した。

尻無濱 芳崇

(1) 研究成果（著書）

黒木淳編著（2019）『公会計テキスト』中央経済社（第6章、第9章の執筆を担当）

(2) 研究成果（論文）

荒井耕・尻無濱芳崇（2018）「病院経営医療法人における法人内連携統合のための経営管理実践—本格的な医療介護複合体としての多角化経営法人での実践状況—」『一橋商学論叢』13(2): 2-24.

(3) 研究成果（学会発表）

Shirinashihama, Y. Decision making by top managers of nonprofits in a financial crisis: The role of accounting information. European Accounting Association 41st Annual Congress, Italy, Milan, 2018/5/31.

尻無濱芳崇「自治体病院経営者の自由裁量と管理会計の活用に関するインタビュー調査」日本管理会計学会2018年度全国大会，慶應義塾大学，2018/8/29.

尻無濱芳崇・荒井耕「病院経営医療法人における法人内連携統合を促す経営管理実践の決定要因」日本原価計算研究学会第44回全国大会，早稲田大学，2018/9/1.

市原勇一・福島一矩・尻無濱芳崇・黒木淳「中小企業における管理会計と財務業績の関係：管理会計システムの整備度と管理会計を活用する能力のギャップが与える影響の考察」日本会計研究学会第77回大会，神奈川大学，2018/9/5.

井上慶太・尻無濱芳崇・藤野雅史「福祉サービス開発における住民の巻き込みとコントロール：交通課題解決プロジェクトの事例」日本会計研究学会第77回大会，神奈川大学，2018/9/5.

尻無濱芳崇「アンソニー学説における利子コスト会計の意義と管理会計論での位置づけ」資金会計フォーラム第3回大会，近畿大学，2018/11/24.

藤野雅史・尻無濱芳崇・井上慶太「福祉サービス開発における住民の巻き込みとコントロール：交通課題解決プロジェクトの事例」第74回京都管理会計研究会，京都大学，2019/1/12.

Inoue, K., Y. Shirinashihama, M. Fujino. Community Involvement and Controls: A Case of Transport

Service Development for the Elderly. 国際ジャーナル投稿のためのワークショップ, 京都大学, 2019/2/5.

(4) 研究成果 (その他)

Shirinashihama, Y. (2018) Decision making by top managers of nonprofits in a financial crisis: The role of accounting information. Melco Management Accounting Research Discussion Paper Series, MDP2018005.

(5) 教育, 地域連携等の活動

- 山形市社会福祉協議会 第4回交通課題について考える会「南沼原地区移動手段に関するアンケート結果報告」講師, 2018/7/27.
- 山形放送 やまがた市政の目「みんなで考えみんなで乗ろう! ~これからの公共交通~」出演, 2018/8/11.
- 東北税理士会 税理士向け集中講義「社会福祉法改正と社会福祉法人の公益的な取り組みの現状」講師, 2018/9/11.
- 2018年6月から、社会福祉法人山形県社会福祉協議会の評議員をつとめている

(6) 研究・教育活動に関するコメント

著書が(共著で2章分しか書いていないが)出せたことは、分かりやすい形の業績になったのでよかった。学会や研究会での発表は大量にやったが、論文としては日本語論文1本だけしか出せなかった。来年度は今年度の研究発表の成果を論文として公表できるように頑張りたい。

また、今年度は新たに科研の若手研究に採択され、アンケート調査と大量のインタビュー調査を行った。その成果も来年度、論文として発表できるように努力していきたい。

## 杉野 誠

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

杉野誠 (2018)「炭素価格政策における費用緩和措置~2011年国内産業連関表を用いた EITE 産業の特定化~」山形大学大学院社会文化システム研究科紀要、第15号、19-29.

(3) 研究成果 (学会発表)

杉野誠 (2018)「カーボンプライシングによる産業への短期的な影響」環境経済政策学会、2018年9月9日.

杉野誠 (2018)「自然災害による資産価値への影響ー鎌倉市の公示地価を用いた分析ー」環境科学会、2018年9月10日.

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

「山形県病院事業中期経営計画の取組状況の外部評価」委員、平成30年11月.

出張講義「環境税は良い税? 悪い税?」福島県立船引高等学校、2018年12月7日.

(6) 研究・教育活動に関するコメント

今年度、地域連携としての活動を行うことができた。一方、研究活動が停滞したため、来年度は両立できるようにしたい。

## 鈴木 明宏

### (1) 研究成果 (著書)

### (2) 研究成果 (論文)

- 鈴木・高橋・竹本, 金融教育と行動バイアスが金融行動と金融トラブルへの巻き込まれやすさに与える影響: 金融リテラシー調査データを利用した分析, 山形大学紀要 (社会科学) 第49巻第1号, 2018.
- 鈴木・高橋・竹本, 小刻みな税率引き上げが消費に与える影響: くじ消費実験による分析, 山形大学法経政策学科 Discussion Paper, 2018-E01, 2018.

### (3) 研究成果 (学会発表)

- Joint Borrowing Limit Game (高橋・竹本との共著), 日本経済学会2018年度秋季大会, 学習院大学, 2018. 9. 8.
- Joint Borrowing Limit Game (高橋・竹本との共著), マクロ経済学ワークショップ, 東北大学, 2018. 9. 14.
- Joint Borrowing Limit Game (高橋・竹本との共著), 東北経済学研究会・経仙会, 龍谷大学, 2019. 1. 26.
- 学歴・金融教育・金融リテラシーが行動バイアスに与える影響, 数理社会学会, 立命館大学, 2019. 3. 8.

### (4) 研究成果 (その他)

### (5) 教育, 地域連携等の活動

[担当科目]

- ゲーム理論、産業組織論、意思決定論演習、基幹科目 (人間を考える)、総合講座Ⅲ

[社会連携等]

- 山形大学まちづくり研究所 (山形大学認定研究所) メンバー

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

本年度の主な研究成果は日本銀行により行われた金融リテラシー調査についてのものである。また、経済実験についてはある程度の結果が得られたため、DPにした。これについては、次年度に学会等で報告する予定である。共同債の研究については報告を何度か行い有益なコメントを得た。これについては、現在投稿中である。

今年度の教育については、工学部のフレックスコースで基幹科目を開講した。開講にあたって事務との間でいくつかのトラブルがあったため、大学には制度の改善を今後強く求めていきたい。

## 鈴木 亨

### (1) 研究成果 (著書)

### (2) 研究成果 (論文)

### (3) 研究成果 (学会発表)

### (4) 研究成果 (その他)

### (5) 教育, 地域連携等の活動

担当授業: 総合英語、英語学特殊講義、日英対照言語学講義、実践英語、教職実践演習 (英語)、

e-learning、英語語法論特論（大学院）

教員免許状更新講習：英語

学会活動：日本英語学会大会運営委員長を務めた。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、活動動詞と形容詞の組み合わせからなる逸脱的な表現の成立のしくみについて研究を進めた。教育面では、多読レポートなど多面的な学習課題による英語力の養成に努めた。

**Stephen Ryan**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

2018. 6. Ryan, S.B. Nakahama Manjiro (1827-1898). 国際日本文化研究会 (IAJS), 山形市.

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

- 英作文（上級）、英語コミュニケーション（上級）、英語コミュニケーション（上級）、コミュニケーションティブ英語（上級）
- グローバルスタディーズコース 1年次生アドバイザー
- 学部とテキサス大学アーリントン国際交流コーディネーターを務める。
- オーストラリアでの短期語学研修準備します。
- 卒論（英語学）
- 高校訪問：出張講義

(6) 研究・教育活動に関するコメント

Research area concerns the intersection of Intercultural Communication and Cross-cultural psychology

**砂田 洋志**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

「モンテカルロフィルタの理論と応用－SCDモデルへの応用－」, 山形大学大学院社会文化システム研究科紀要, 第15号, pp.31-44, 2018年9月.

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

- 講義  
計量経済学1・2、統計学1・2、演習（学部）、統計学基礎（ジェネリックスキル科目）  
経済統計論（福島大学経済経営学類）
- 地域連携

山形県市町村職員共済組合と同互助会の学識経験監事として監事業務を行った。

山形県統計利用アドバイザーを任命されており、必要に応じて相談に応じている（平成30年4月、9月）。

山形地方労働審議会委員として審議会に参加した（平成30年11月、平成31年3月）。

高校訪問（山形県立山形東高校、平成28年8月）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

- 高頻度の金融データに関する論文を公刊することができた。
- 平成31年度はさらに高度なモデルを用いた実証分析をしたいと考えている。
- 初めて担当したジェネリックスキル科目の『統計学基礎』については今後更なる改善が必要である。
- 統計学演習に所属する2人の卒業生に対して卒業論文の指導を行なった。

**摂津 隆信**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

Sumo, Judo und Wrestling -Am Beispiel von Rikidōzan und Masahiko KIMURA sowie dem japanischen Showbusiness-

[Internationale Vereinigung für Germanistik (国際ドイツ文学協会) 承認]

(Akten des VIII. Internationalen Germanistenkongresses Warschau SHANGHAI 2015. Germanistik zwischen Tradition und Innovation, Hrsg. von Jianhua Zhu, Jin Zhao und Michael Szurawitzki, Band 12. Peter Lang, S. 351-355)

(3) 研究成果（学会発表）

ファレンティン喜劇におけるグロテスクな笑いとその目的 — 『受堅者』（1922）を例に—  
（東北ドイツ文学会第61回研究発表会、福島市男女共同参画センターウイズ・もとまち、10月20日）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

山形県立山形西高等学校模擬授業（7月25日）

第11回山形大学朗読コンクール審査員（9月9日）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

基盤教育では初修ドイツ語、専門科目ではドイツ文化論と時事ドイツ語、および留学事前演習を担当した。学生たちが自ら学び、教え合う授業を実践できたと思う。研究活動については調査に時間がかかり、思うように執筆に時間をかけられなかったことが反省点である。

3月にはドレスデン工科大学語学研修インスティテュートを視察し、先方に学部間交流協定締結を持ちかけた。成功裏に進捗すれば、2019年度中に交流協定を結べるものと考えている。

**高倉 新喜**

(1) 研究成果（著書）

- 後藤昭・白取祐司編『新・コンメンタール刑事訴訟法 [第3版]』（日本評論社、2018年）  
127-150頁 [高倉新喜執筆]、225-270頁 [高倉新喜執筆]（ただし、232-233頁、248-250頁

および253-255頁は除く)、954-987頁 [高倉 新喜執筆]、1025-1039頁 [高倉新喜執筆]

(2) 研究成果 (論文)

- 高倉新喜「最新判例演習室—証拠の明白性 (刑訴法435条6号) の判断方法」『法学セミナー』760号 (2018年) 124頁
- 高倉新喜「最新判例演習室—DNA型鑑定 of 証明力 (信用性) の評価」『法学セミナー』763号 (2018年) 126頁
- 高倉新喜「第一審の有罪判決を事実誤認で破棄した控訴審判決の当否」『法学セミナー』766号 (2018年) 130頁
- 高倉新喜「保護室に収容された未決拘禁者と弁護人の接見交通権」『法学セミナー』769号 (2019年) 130頁

(3) 研究成果 (学会発表)

2019年3月9日 (土) 2018年度第5回刑事法研究会で判例報告

最三小平30・12・11裁時1714号4頁

(東北大学川内南キャンパス法学研究科棟)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

〈教育〉

法と裁判、刑事法基礎2、刑事訴訟法1、刑事訴訟法2、刑事訴訟法演習、裁判員制度—刑事司法との共生を考える (共生を考える)、総合講座Ⅱを担当。

〈地域連携等の活動〉

- 山形県精神医療審査会委員
- 山形県介護保険審査会委員
- 山形県弁護士会綱紀委員会予備委員
- 山形地方裁判所簡易裁判所判事推薦委員会委員
- 山形県教職員法令遵守委員会委員長
- 山形少年鑑別所視察委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

法学セミナーの最新判例演習室の刑事訴訟法のコーナーの担当を継続した。『新・コンメンタール刑事訴訟法』(共著)の第3版を刊行できた。

基盤教育においては、「裁判員制度—刑事司法との共生を考える (共生を考える)」で学生に裁判傍聴レポートを課すことにより現地学習をさせた。

刑事訴訟法演習においては、山形刑務所見学を実施するとにより、学生に現地学習をさせた。

刑事法基礎2においては、刑事訴訟法の基礎的事項を学生に修得させ、刑事訴訟法1・2においては、事例問題を中心に講義を行うことにより、刑事手続で起こる具体的問題について学生に考えさせるようにした。

## 中村 隆

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

「ディケンズの文体：『ドンビー父子商会』の場合」と題して研究発表をした。(学会名：「ヴィクトリア朝研究会」、日時：2018年8月18日)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、科研費 (基盤研究C「ディケンズ文学と子供の表象」、課題番号：16K02440) の研究を文体論の観点から推し進めた。

### 高橋 真彦

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

Takahashi, Masahiko. 2018. On the ban on embedded nominative major subjects: Case, A-movement, and phases. In Proceedings of the 10th Workshop on Altaic Formal Linguistics (WAFL10), ed by Theodore Levin and Ryo Masuda, 253-264. Cambridge, MA: MITWPL.

(3) 研究成果 (学会発表)

高橋真彦 (2018) 例外的格標示構文における対格主語の統語的位置について. 日本英文学会第90回大会シンポジウム「Merge と Labeling を巡って」. 東京女子大学.

Takahashi, Masahiko (2017) Raising to Object and Clausal Arguments. The 5th Workshop of the NINJAL Collaborative Research Project (Generative Perspectives on the Syntax and Acquisition of Japanese). 東北大学.

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

総合英語、コミュニケーション英語、実践英語e、e-learning、実践英語f、言語学演習、グローバル・スタディーズ基礎講義、卒業論文

高校訪問 (1件)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費 (若手研究) プロジェクト「併合に基づく格付与の比較統語論研究」の研究を行った。

### 高橋 良彰

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

「ボアソナーの最初期民法典構想とその展開」水林彪・吉田克己編『市民社会と市民法——civilの思想と制度』(日本評論社) 2018. 05

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

特記事項はないが、安達峰一郎研究資料室に岡村司の日誌を紹介しながら1900年パリ万博前後の安達夫妻に関するブログを掲載した（6回）。（その2）は、次年度掲載の予定である。安達の研究はもちろんのこと、民法学者岡村司の研究にも結びつけられればと考えている。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

2018年5月に発行された『市民社会と市民法』に「ボアソナードの最初期民法典構想とその展開」と題した論文が掲載された。これまでのボアソナード民法典研究の総括になる。同月13日に開催された同書をめぐるシンポジウムにも出席できた。この他、日本司法書士会連合会の依頼で『日本司法書士史』の続編の編纂に協力し、本年度からは正式に客員委員となった。本格的な執筆・編集はこれからであるが、編集委員会に出席するとともに、執筆・編集のための資料を整理している段階である。また、その過程で知り合った司法書士の方々に誘われ、広島司法書士会主催の研究会にも招かれ、フランスの不動産公示制度について解説した。法制史学会の中部支部で開催された研究会では、大久保泰甫先生の新著の書評会に出席し、ボアソナード研究についての知見を得る機会を持った。

**田北 俊昭**

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）

自然や歴史文化の伝承と空間経済の関連性，平成30年度応用地域学会，平成30年12月，南山大学

- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育，地域連携等の活動

学部教育では、「データ処理演習」「地域科学」および「経済情報科学1および2」、「経済情報科学演習」、基盤教育では「観光学と地域ブランド」を担当している。大学院では、「社会経済システム論特論I」「社会経済システム演習」、「公共政策特別研究I」を担当している。平成30年の後半において健康上の理由から休講が重なったことは残念であり、多くの先生方の支援に感謝したい。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

本年度の研究・教育活動については、健康上の理由より十分ではなかった。今後、健康に留意して頑張っていきたい。

**竹内 麻貴**

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）

2018, 「現代日本における Motherhood Penalty の検証」『フォーラム現代社会学』17: 93-107.

- (3) 研究成果（学会発表）

「日本における Motherhood Penalty 研究の現在地」，東北大学 社会にインパクトある研究 ランチセミナー，2018年11月6日，東北大学.

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

山形市仕事の検証システム 外部検証委員, 2019年1月～.

(6) 研究・教育活動に関するコメント

【研究】「政府統計とサーベイ実験を用いたケアペナルティの検証」科学研究費助成事業 若手研究 (研究課題番号 18K12918, 研究代表者, 2018年4月1日～2022年3月31日) に採択された.

【教育活動】

社会学演習, 社会調査法基礎, 専門基礎演習, 地域社会学, 調査方法論, 公共政策・地域課題実践演習 A4のを担当するとともに, 6名の卒業論文指導を行った. またオープンキャンパスにおいて, 模擬講義 (「三世代同居は家族を救うか」, 8月4日) を行った.

溜川 健一

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

マクロ経済学1, マクロ経済学2, マクロ経済学3, マクロ経済学演習, 経済数学 (前期), 企業課題解決型実践演習

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動を満足にできなかった。次年度は頑張りたい。

富澤 直人

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

派生における項構造の変化に関する科研費課題について継続的に研究を行った。

(5) 教育, 地域連携等の活動

教育

- 基盤共通: 総合英語、英語 C/R、文化と社会 (言語学)
- 学部: 英語学概論、英語学特殊講義、e-learning、GS 基礎講義 (1回)
- 大学院: 英語学特論 I、現代外国語
- 卒論指導: 2名 (正)、2名 (副)
- 学部研究生: 1名

地域連携等

- 大学説明会 (仙台会場)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

## 富田 かおる

### (1) 研究成果 (著書)

Applied Studies on Ability of Analyzing English Sounds with Visualization、山形大学人文社会科学部叢書、1-191

### (2) 研究成果 (論文)

### (3) 研究成果 (学会発表)

Teaching English Pronunciation for Elementary School Teachers of English、The 57th JACET International Convention (Sendai, 2018)

### (4) 研究成果 (その他)

『大学英語教育の担い手に関する総合的研究』大学英語教育学会 (JACET) 第4次実態調査委員会、1-141

### (5) 教育、地域連携等の活動

放送大学山形学習センター主催のセミナーで講師を務めた。

### (6) 研究・教育活動に関するコメント

所属学会主催シンポジウムで John Wells 氏及び Hiroshi Matsusaka 氏とパネリストとして音声教育について議論出来た事が有意義であった。

## 中澤 信幸

### (1) 研究成果 (著書)

### (2) 研究成果 (論文)

- 東方孝義編『台日新辞書』所収語彙の特徴、中澤信幸・岩城裕之 (共著)、『天理臺灣學報』27 (天理台湾学会)、pp.97-118、2018年6月

### (3) 研究成果 (学会発表)

- 20世紀初頭の台湾語辞書に見られる語彙の残存状況について、天理台湾学会第28回研究大会、2018年6月30日
- 日本呉音における清濁表記の変容についての検討 ―法華經の仮名音注と音義書を中心に―、宋在漢・中澤信幸 (共同で口頭発表)、韓国日本学会第98回国際学術大会、2019年2月15日

### (4) 研究成果 (その他)

### (5) 教育、地域連携等の活動

〔担当授業〕

- 学部専門科目：日本語 a、日本語学概論、日本語学特殊講義 a、日本語学演習 a、課題演習 (日本語学)、日本語文化論 (日本学入門)、国語の教材分析 B、教職実践演習 (中学校・高等学校) 国語
- 大学院科目：日本語史特論 I、日本語史特別演習
- 基盤教育科目：日本語と他言語共生社会 (共生を考える)、日本語音韻史入門 (言語学)

〔卒業論文〕

- 山形県内の方言の使用状況と意識について

- ・山形県尾花沢市 市野々・岩谷沢方言について  
〔修士論文〕
- ・日本語韻律に現われた台湾語音の特徴について
- ・小説における日中同形語に関する対照研究 — 翻訳文を中心として —
- ・日中同形類義語の対照研究 — 否定接頭辞「不」「無」「非」「未」が含まれる二字漢語を中心  
に —
- ・日本語習得の観点から見た中国西南方言と日本漢字音との対照研究
- ・述語の関与者の言語化に関する日独対照 — マンガのセリフをもとに —  
〔地域連携〕
- ・“巡礼”による地域の魅力再発見, 台湾・国立成功大学文學院, 2018年11月17日 (共催者として  
開催に携わる)
- ・日台における宗教と思想研究 — 仏教と儒学に注目して —, 山形大学人文社会科学部, 2019年  
2月10日 (主催者として開催に携わる)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では、前年度までの科研費による研究で得られた、台湾の社会言語学的状況に関する論考を発表した。また、新たに日本学術振興会外国人特別研究員を受け入れたことにより、科学研究費助成事業（科学研究費補助金、特別研究員奨励費、研究課題名：中近世日本における韻書受容と法華経字音学の変容、課題番号：18F18006、研究期間：平成30～31年度、研究代表者：中澤信幸）による研究活動を行った。

教育面では、学部卒業論文2本、大学院修士論文5本の研究指導を行った。また平成28年度より継続して、「課題演習（日本語学）」で方言に関するPBL授業を実施し、河北町へ学生を引率して方言調査を行った。

地域連携面では、前年度に設立した日台政策研究所の活動を継続し、2度にわたる国際シンポジウムの開催に携わった。

**中島 宏**

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）
  - ・「『共生』のためのニカブ禁止と宗教の自由」国際人権29号（2018年10月）106～108頁
  - ・「大学におけるスカーフ着用の禁止——レイラ・シャヒン判決——」小畑郁ほか編『ヨーロッパ人権裁判所の判例Ⅱ』（信山社、2019年3月）317～320頁
  - ・「フランス宗教法関連文献紹介」宗教法37号（2018年11月）277～293頁
- (5) 教育、地域連携等の活動  
〔教育〕
  - ・基盤：日本国憲法、映画で考える憲法問題
  - ・専門：憲法3、憲法4、憲法演習Ⅰ、公務員対策セミナー

- ・非常勤：「フランス憲法に学ぶ」（放送大学山形学習センター面接授業）

[地域連携]

- ・審議会：①山形市個人情報保護制度運営審議会（副会長）、②天童市情報公開・個人情報保護審査会、③山形県後期高齢者医療広域連合個人情報保護制度運営審議会
- ・講演：①山形県要約筆記者養成講座（7月8日、山形県社会福祉研修センター）、②第2回きんきゅう憲法講演会（10月26日、酒田市総合文化センター）
- ・出張講義：①山形県立高島高校10月10日、②宮城県石巻高校10月16日

(6) 研究・教育活動に関するコメント

今年も様々な活動を行うことができた。

## 中村 篤志

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

中村篤志「清朝治下ハルハモンゴル社会における人の移動と駅舎」『北東アジア研究』別冊4, pp.163-181。

(3) 研究成果（学会発表）

[国際会議]

- ・中村篤志「清代のハルハ社会における移動（モンゴル語）」モンゴル国立大学歴史学部セミナー（2018年5月9日、モンゴル国・ウランバートル市・モンゴル国立大学）
- ・中村篤志「清代の駅舎とハルハ社会：サイロス駅舎を事例に（モンゴル語）」国際シンポジウム「History of Eurasian Nomads: state, society and culture」（2018年9月7日、モンゴル国・ウランバートル市・国立科学アカデミー）

[国内学会]

- ・中村篤志「清代漠北モンゴルの駅舎をめぐって：2018年調査報告」科研費・基盤研究(B)「前近代中央ユーラシアの南北交通システムの総合的研究」第2回研究会（2019年1月13日、山形大学）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

[地域連携]

- ・新モンゴル学校での山形大学入試&学部教育内容説明会（2018年4月25日、モンゴル国新モンゴル学園）
- ・モンゴル教育テレビ「教養セミナー」に出演（2018年10月2日放送）

[教育活動]

- ・異文化コミュニケーション・モンゴル説明会兼国際交流講演会を企画し、新モンゴル学園サマースクールの宣伝、モンゴルでの国際交流の魅力についてゲストスピーカーや在学生に発表をしてもらった（2018年12月6日）。
- ・人文社会科学部FD講演会「主体的探究支援を目指して」（岩手・大船渡高校・梨子田喬先生）を企画、コーディネートした（2019年2月12日）。

[担当授業]

- 学部主担当：内陸アジア史概論、アジア史演習（二）
- 学部分担担当：人間文化入門総合講義
- 大学院：北アジア史特論

(6) 研究・教育活動に関するコメント

- 4月から9月まで、文科省科研費・国際共同研究加速基金（国際共同研究強化）によりモンゴル国で国際共同研究に従事した。その成果を国際会議や論文などで発表した。本格的な成果公開は次年度以降の予定である。
- モンゴル滞在中も現地で大学や学部の広報をし、テレビ番組で研究紹介をする機会を得た。
- 帰国後は、モンゴルとの国際交流の推進を図り講演会・説明会を開催した。
- 高大連携についても、高校教諭を招いた学部のFD講演会を企画するなどで尽力した。

**中村 文子**

(1) 研究成果（著書）

（共著）佐藤史郎・川名晋史・上野友也・齊藤孝祐編『日本外交の論点』法律文化社（第19章「日本における人身取引と人権」担当、198-208頁）、2018年4月。

(2) 研究成果（論文）

Nakamura, Ayako, "Reluctant Regionalism: The Diffusion of Anti-Trafficking Norms and Cooperation in Northeast Asia," in *The Journal of Law and Politics*, No.71/71, Yamagata University Law Association, 135-166, March 2019.

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

【科研費】国際共同研究強化（B）、課題番号18KK0056、2018年度～2022年度、「グローバル性労働と人身取引の狭間にあるもの：聞き取りとネットワークの分析から」、研究代表者：青山薫（共同）、研究分担者。

【学内研究補助金】山形大学人文社会科学部研究活動支援経費、2018年度、「人の国際移動と人権保護のためのレジーム生成に関する研究－ジェンダーをめぐる規範化と制度化の拡大－」、研究代表者：高橋和（共同）、研究分担者。

(5) 教育、地域連携等の活動

【担当科目】グローバル・ガバナンス論演習、グローバル・ガバナンス論Ⅰ・Ⅱ、国際政治学（基盤教育）、総合講座Ⅰ（1回分を担当）、スタートアップセミナー（基盤教育）

【非常勤】東北大学 全学教育「ジェンダーと人間社会」（前後期各3回分を担当）

【出張講義】山形県立南高等学校（2018年9月19日）、山形県立鶴岡南高等学校（2018年10月4日）

【学内委員】社会系3コース入試小委員会委員、社会系3コース公開講座担当

【地域貢献】

- 山形大学男女共同参画室企画・大日本印刷研究開発センター研究者 山形大学留学で講義「性的搾取のグローバリゼーション」（2018年7月13日）
- 山形大学法学会・人文社会科学部共催 学術講演会 開催

竹中千春 教授（立教大学）「ガンディーに学ぶ—現代世界の暴力の連鎖を解くために—」（2018年12月12日）山形大学人文社会科学部301教室

(6) 研究・教育活動に関するコメント

【研究活動】共著および本学紀要に論文を掲載することができた。

また、今年度獲得された科研費「国際共同研究強化」の研究分担者として、自身の専門である国際関係論のみならず、社会学など学際的アプローチで人身取引を研究するプロジェクトをスタートさせることができた。学内の研究活動支援経費でも「ジェンダーをめぐる規範化」について一定の研究成果を出すことができた。

学会では、日本平和学会の企画委員会委員として、研究大会の企画等に尽力した。

【教育活動】演習に所属する学生の面談を数回に渡って積極的に行い、単位取得状況の確認、演習での要望、進路などについて、細かく指導・相談を行った。また、演習以外の学生についても、海外渡航の相談や書類作成などを通じて、積極的に対応・支援した。

**西岡 正樹**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

「法の不知に関する一考察」法政論叢70・71合併号（平成31年3月）167-208頁

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

「刑事裁判例批評」刑事法ジャーナル58号（成文堂、平成30年11月）121-126頁

(5) 教育、地域連携等の活動

〔教育〕

担当授業科目

専門科目：総合講座Ⅱ、専門基礎演習、刑事法基礎1、刑法1、刑法2、刑事政策、刑法演習Ⅱ

〔地域連携等〕

・山形大学公開講座「新聞記事で読み解く法律問題—法律って意外と面白いかも—」第3回の講義を担当（平成30年10月2日）

・「山形地裁判事による裁判員制度に関する出前講義」の企画運営に携わった（平成31年2月12日）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、科学研究費補助金（基盤研究（C））の研究を継続的に行ない、研究成果の一部を公表した。

教育活動については、昨年度の授業評価等を踏まえつつ、特に学生の理解が不十分であった点について解り易く講述した。刑法演習Ⅱにおいて最高裁判所および警視庁の施設見学を行い、施設運営などの実態についての知識を深めた。

**西上 勝**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果 (論文)

「中国絵画通史の構築と「変」の概念 - 黄賓虹 (1865-1955) 著『古画微』をめぐって」  
(山形大学大学院社会文化システム研究科紀要 第15号)

平成30年9月、1~18頁

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業]

専門教育: 中国文学概論など

基盤教育: 共通科目コミュニケーション・スキル2「中国語」

研究科: 中国中世文化論特論など

[地域連携]

山形新聞「ことばの杜へ」欄 (毎週土曜日掲載) に、のべ6回にわたって寄稿した。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

**藤田 稔**

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

「株式会社ふくおかフィナンシャルグループによる株式会社十八銀行の株式取得に関する審査結果」 N B L1138号90-97頁 平成31年1月

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

「不当廉売となる原価の基準——中部読売新聞事件」 別冊ジュリスト241号178-179頁 平成30年12月

(5) 教育, 地域連携等の活動

経済法1 経済法2 経済法演習 専門基礎演習 経済法と憲法の間観を通じて (人間を考

える)

独占禁止政策協力委員

山形県弁護士会綱紀委員会委員

山形県立保健医療大学倫理委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

**洪 慈乙**

(1) 研究成果 (著書)

2019年5月発行予定の木戸田力編著『財務報告の方法と論理』(五紘社) 補章「仕訳と勘定記入の原則」、pp.68-74、担当。

(2) 研究成果 (論文)

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

(5) 教育、地域連携等の活動

教育：専門科目（会計学・財務会計・会計学演習）および自治体経営の世話人

地域連携：きらやかマネジメントスクール2018第4回「経営と会計2」担当

(6) 研究・教育活動に関するコメント

**本多 薫**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

1) 本多薫：ディスプレイの周辺に表示される図形情報の表示位置が利用者の反応に及ぼす影響—画面の中心に意識を向けた場合の画面サイズの違いによる検討—、日本生理人類学会誌、第23巻3号、p.79-85、2018.

2) 本多薫、門間政亮：ナスカ台地におけるラインセンターの可視領域の範囲と配置について—可視領域解析による可視・不可視領域からの分析—、山形大学人文社会科学部、第16号、p.31-42、2019.

(3) 研究成果（学会発表）

1) 門間政亮、本多薫：モニター画面の周囲に視線を向けた場合の情報入手に与える影響、日本人間工学会第59回大会講演集、宮城学院女子大学（仙台市）、p. 2G1-3、2018年06月03日

2) 本多薫、門間政亮：ナスカ台地における丘の可視領域解析—感性・空間・可視の視点からの考察—、第14回日本感性工学会春季大会予稿集、信州大学（上田市）、p. 1p08、2019年03月07日

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

授業：（学部）人間情報科学概論、情報科学概論、人間文化入門総合講義、人間情報科学基礎演習、人間情報科学演習、情報処理実習、データ処理演習：（大学院）人間情報科学特論Ⅰ卒業研究の指導（正指導教員として指導した卒業論文）：

(a) 情報機器における文字入力について—スマートフォン世代の大学生を対象として—

(b) 小学校におけるプログラミング教育に関する研究

(c) 文書中の絵文字による短期記憶への影響

(d) 個人の批判的思考態度がSNS上のストレスに与える影響

地域貢献活動等：

(a) 日本人間工学会 代議員

(b) 日本人間工学会第59回全国大会実行委員会 委員

(c) 日本人間工学会東北支部運営委員会 委員

(d) 土木学会 地下空間研究委員会心理小委員会 委員

(e) その他、公的資格検定試験の委員など

(6) 研究・教育活動に関するコメント

平成30年度は、PC用ディスプレイでの情報の表示位置と反応時間との関係に関する研究を進めた。また、ナスカ台地のラインセンターの可視領域解析を実施し、ラインセンターの配置の妥

当性を検討した。教育としては、データ処理演習（ジェネリックスキル科目）のテキストの分担執筆を行うなど、円滑な実施に努めた。また、情報科学関連の講義と演習を担当するとともに、卒業研究の指導を行った。

## 松本 邦彦

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育、地域連携等の活動

### 【教育】

- 大学院：プロジェクト演習2。
- 学部：日本外交論1 & 2。日本外交論演習（履修者なし）。日本政治論。公共政策・地域課題実践演習 A2（川村一義先生と共同担当／履修者なし）。総合講座1（オムニバス）。公務員対策セミナー「論作文指導」。
- 基盤：基幹科目 > 共生を考える > 多民族共生の現実と課題。

### 【地域連携】

- 2018年7月11日に高校で出張講義。福島県立福島東高等学校総合学習「学問入門講座」にて「市民団体がなう公共政策」。
- 2019年1月30日に市民団体の職員研修で講演。河北町のNPO法人・河北子育てアドバイザーセンターにて「山形での外国人の今後の受け入れについて」。
- 2018年1月から2019年12月31日までとして「子育てするなら山形県推進協議会委員」。
- 昨年度にひきつづき「山形市コミュニティファンド評議委員会委員」。

### 【学内委員（全学）】

- エリアキャンパスもがみ運営会議
- 保健管理センター運営会議（学部教育委員会より）

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費による研究の二年目でした（基盤C／2017年度～2019年度／課題番号：17K03575／研究課題名：植民地支配の遺産と多文化共生政策：地方政治家と朝鮮学校を中心に）。2018年度のうちの成果刊行には間に合いませんでした。

教育では期末の評価をレポートから試験に切り替えて二年目です。今後も多面的な評価ができるよう努めます。

## 松本 雄一

- (1) 研究成果（著書）

アンデス古代の探求（担当：分担執筆，範囲：カンパナユック・ルミ遺跡：周縁から見たアンデス文明の形成（第6章 129-150））

大貫良夫 稀有の会 編

中央公論社 2018年 5月

(2) 研究成果 (論文)

Campanayuq Rumi and Arpiri: Two Civic-Ceremonial Centers on the Southern Periphery of the Chavín Interaction Sphere

ジェイソン・ネスビット、松本雄一、ユリ・カベロ

Ñawpa Pacha Journal of Andean Archaeology Taylor & Francis Online. 1-19 2019年 3月 (査読あり)

Paracas en la Sierra: Interacción Temprana entre la Sierra Centro-sur y Costa Sur

松本雄一

Peruvian Archaeology 3 33-64 2019年 3月 (査読あり)

(3) 研究成果 (学会発表)

Las fronteras del fenómeno Chavín

松本雄一、山本睦

Nuevas Perspectivas a la Formación de Civilización Temprana en Los Andes: Cronología, Interacción, y Organización Social 2019年 3月21日

神殿間ネットワークと在地性：アンデス形成期の事例

松本雄一

南山大学人類学研究所2018年度第4回公開シンポジウム遺跡に見る在来知—モニュメント、自然環境、インターアクション」2018年12月26日

コトシュ遺跡の時代と人びと—ワヌコ盆地の編年と社会像の再検討

鶴見英成、松本雄一

2018年12月22日

研究の到達点と展望—何がわかったのか、何を指すのか

大貫良夫、関雄二、坂井正人、井口欣也、鶴見英成、芝田幸一郎、松本雄一

日本アンデス調査60周年記念シンポジウム「アンデス文明の成り立ちを追って—日本調査団の継承と発展」2018年12月22日

カンパナユック・ルミにおける円形半地下式広場の発見とその意義

松本雄一

古代アメリカ学会第23回研究大会 2018年12月 1日

Evidencias arquitectónicas en la parte alta de la plataforma principal del centro ceremonial Campanayoq Rumi, Ayacucho.

Yuri Cavero Palomino y Yuichi Matsumoto

IV COLOQUIO DE ESTUDIANTES DE ARQUEOLOGIA E HISTORIA UNSCH 2018年10月17日

Campanayuq Rumi and the Southern Periphery of Chavín Phenomenon

松本雄一

Dumbarton Oaks Conference: Reconsidering the Chavín Phenomenon in the 21st Century 2018年10月 6日

Resultados preliminares de las excavaciones en el sitio de Estudiantes

松本雄一

III Simposio de Arqueologia 2018年 8月25日

ナスカ地域におけるミドルホライズンの展開

松本雄一

日本アンデス調査60周年記念シンポジウム：日本アンデス調査団と山形大学ナスカプロジェクト  
ト 2018年 6月22日

Settlement Pattern Study on the Early Occupations in the Upper Huallaga Basin, Northern Peru

Tsurumi, Eisei, César Sara and Yuichi Matsumoto

Society for American Archaeology 83rd Annual Meeting 2018年 4月13日

(4) 研究成果（その他）

Proyecto de Investigaciones Arqueológicas Campanayuc Rumi, Vilcashuaman, Ayacucho 2016 (ペルー文化省提出報告書)

Yuichi Matsumoto y Yuri I. Cavero Palomino

2018年 6月

(5) 教育、地域連携等の活動

古代アンデスの謎に迫る ナスカの地上絵 マチュピチュ遺跡

【情報提供】

山形新聞

国際学術講演会「マチュピチュとナスカの地上絵—最新調査からみた世界遺産—」

2019年 3月 6日

国際学術講演会「マチュピチュとナスカの地上絵—最新調査からみた世界遺産—」

【司会】

山形大学 国立民族学博物館

国際学術講演会「マチュピチュとナスカの地上絵—最新調査からみた世界遺産—」

2019年 3月16日

Ruinas Campanayuc Rumi impresionan al mundo

【インタビュー、助言・指導、情報提供】

Espresso (Peru)

2018年11月 9日

Descubren gran centro ceremonial

【インタビュー、助言・指導、情報提供】

Peru 21

2018年10月27日

Descubren centro ceremonial de tres mil años de antigüedad

【インタビュー、助言・指導、情報提供】

Diario Jornada (Peru)

2018年10月 8日

ナスカの謎はどこまで明らかになったのか：学際的研究の最前線

【講師】

宮城県立泉高校

2018年5月30日

(6) 研究・教育活動に関するコメント

出版に関しては、査読付き国際学術誌への採択が2本と、一般書への寄稿が一つである。国際学術誌の投稿には米国、ペルーの研究者との国際共著が含まれている。研究成果発表に関しては、日本、米国、ペルーで10件の発表を行った。特にハーバード大学ダンバートンオクス研究所の重要なシンポジウムへ招待され、これまでの研究成果を発表できたことは個人的に喜ばしいことであった。地域連携に関しては日本とペルーにおいて、講演や新聞などのインタビューを受けるように心がけた。今年度は学術的な活動を明確に教育に反映させることを目指し、最新の学術的課題の意味をアクティブラーニングで扱うような授業の構築を試みた。ペルー人留学生の指導においては、試行錯誤が続いており、スペイン語での効果的な指導方法を今後とも検討していく必要がある。

丸山 政己

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

① 「国際組織の『事後の実行』再考—ILC 結論草案を手がかりに—」『一橋法学』第17巻3号（2018年11月）95-114頁

② 「国連狙い撃ち制裁レジームの国際公共的性格について」『山形大学法政論叢』第70・71合併号（2019年3月）209-240頁

(3) 研究成果（学会発表）

（学会報告）「国連狙い撃ち制裁レジームの国際公共的性格 レジームの国際公共的性格—対テロ制裁を中心に—」日本国際連合学会2018年度研究大会（東海大学高輪キャンパス，2018年6月30日）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育、地域連携等の活動

- 担当科目：国際法，国際人権法，国際法演習，グローバル・プロブレマティーク基礎演習 d，総合講座 I，II（それぞれ1回分を担当），スタートアップセミナー（基盤教育）
- 慶応義塾大学法科大学院ゲスト・スピーカー（Area Studies of Law (EU) の2コマ分）“Global Constitutionalism in the UN Security Council: ‘Legal Control’ by the ECtHR ?”（5月13日）
- オープンキャンパス2018模擬講義「国連安全保障理事会の役割とは—ゴジラを倒すために日本への熱核攻撃を各国に許可することができる？—」（8月4日）
- 山形南高校出張講義「国連安全保障理事会の役割とは」（9月19日）
- 安達峰一郎研究関係：山辺町安達峰一郎博士顕彰会との連携として，①書簡等の PDF データ化作業，②書簡集編集委員会の開催（6月8日，11月29日）③科研費（基盤研究 B）「外交官，国際法学者，そして裁判官としての安達峰一郎に関する総合的研究」（研究代表者：柳原正治）の研究会@山形大学の開催（6月20日）など

- 学内委員：社会系3コース入試委員会委員，データ・判例検索室担当（兼山形大学法学会研究会担当）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

今年度は突発の事情が頻繁に生じたが、何とかやり遂げた感がある。特に研究面において、恩師の退職記念号への寄稿（上記論文①）と、筆舌に尽くせない学恩を賜った北川・高橋・星野三先生の退職記念号への寄稿（上記論文②）が、（その出来栄はさておき）叶ったことに安堵している。上記論文②は、図らずも、三先生が最終的に所属した地域公共政策コースの教育における「国際」公共的側面の重要性を部分的に実証することにもなっていると考えている。

**宮腰 直人**

- (1) 研究成果（著書）

- (2) 研究成果（論文）

『義経地獄破り』の生成基盤—稚児学匠としての牛若像の展開から』（『立教大学日本文学』(120) 14-29 2018年7月）

- (3) 研究成果（学会発表）

- (4) 研究成果（その他）

書評「異文化交流の神話学—絵巻・予言書・漢文説話」（『青春と読書』 53(6) 47-47 2018年5月）

書評「芸能史研究の魅力」（『図書新聞』 (3390) 2019年3月）

- (5) 教育、地域連携等の活動

講座「平家物語と芸能」（放送大学山形学習センター 2018年6月16日—2018年6月17日）

講座「米沢と『平家物語』—藩主の文事と藩士の蔵書」（市立米沢図書館 古典文学講座 2018年11月10日）

- (6) 研究・教育活動に関するコメント

研究については公刊できたものが少なく反省している。教育については、卒業論文5名、修士論文1名の指導をした。指導過程で学ぶことも多く、6名には感謝している。地域連携においては、継続的に行っている米沢図書館の調査成果の一部を公開講座のなかで報告できた。今後も図書館との信頼関係を築きながら、地域資料の調査研究と成果発信についての試行錯誤を重ねていきたい。

**村松 怜**

- (1) 研究成果（著書）

村松怜、「日本の福祉財政の歴史」、高端正幸・伊集守直編著『福祉財政（福祉+α11）』（ミネルヴァ書房）所収、2018年9月

- (2) 研究成果（論文）

村松怜、「日本における相続税・贈与税の役割に対する認識」、『税研』、第201号、2018年9月

村松怜、「戦前日本における大蔵省の所得税思想—「社会政策的税制」の再検討」、『歴史と経済』、242号、2019年1月

- (3) 研究成果（学会発表）

村松怜、「戦前・戦時期における大蔵省の租税体系論」、政治経済学・経済史学会2018年度秋季学術大会、2018年10月20日

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育，地域連携等の活動

担当授業：「経済政策論1」、「経済政策論2」、「日本経済論」、「経済政策論演習」、「スタートアップセミナー」、基盤教養科目

(6) 研究・教育活動に関するコメント

## 森岡 卓司

(1) 研究成果（著書）

1. [分担執筆] 坪井秀人編『敗戦と占領（戦後日本を読みかえる）』2018.6 臨川書店  
「一九四〇年代東北表象言説と『百姓のノート』」（p210～p239）

2. [共編著] 高橋秀太郎・森岡卓司編『一九四〇年代の〈東北〉表象 文学・文化運動・地方雑誌』2018.10 東北大学出版会

編集担当（共編）、「はじめに—地方文学運動と〈東北〉表象」（p3～p11）、「提喩としての東北—吉本隆明の宮沢賢治体験」（p109～p128）

(2) 研究成果（論文）

(3) 研究成果（学会発表）

1. 「地方文学運動としての「民話」研究」2018.6.10 第80回日本比較文学学会全国大会シンポジウム「〈地方〉というレトリックの〈あと〉」

2. 「占領期山形の文化運動と『月刊郷土』」2018.11.17 20世紀メディア研究所第123回研究会 早稲田大学

(4) 研究成果（その他）

1. [書評] 森岡卓司「石川巧著『幻の雑誌が語る〈戦争〉』『月刊毎日』『国際女性』『新生活』『想苑』』2019.3 昭和文学会『昭和文学研究』第78集

2. [書評] 森岡卓司「中村唯史・大平陽一編『自叙の迷宮—近代ロシア文化における自伝的言説』（水声社、二〇一八年四月）」2019.3 日本比較文学会『比較文学』61巻

(5) 教育，地域連携等の活動

1. [分担執筆] 教育出版株式会社編集局編『新編 現代文B 言葉の世界へ 教授資料 ① I部1～4単元』（p170～p187）2014.4（改訂版 2018.4）

2. [講演] 「「地方」像のゆらぎ—1930～50年代山形の文学をめぐる」2018.4.21 山形県詩人会主催・文学講演会

3. [講演] 「「地方」を出る森英介—『労農』前後を中心に」2018.5.27 市立米沢図書館 森英介展記念講演会

4. [記事執筆] 「やまがた再発見」412.長崎浩 上、413.長崎浩 下 2018.6.24, 7.1 『山形新聞』

上記のほか、教職免許状更新講習講師、高校へ出張講義・説明会（羽黒、山形中央、山形北）、山新文学賞（『山形新聞』紙上、毎月）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究面では近代日本における地方表象というテーマに専ら注力した。研究成果著書欄2の編著に関して、読売新聞（全国版）、図書新聞、秋田魁新報、山形新聞に好意的な書評を得、広島大学では書評会も開催された。科研費（基盤研究B（16H03364）「東北地方における写真文化の形成過程と視覚資料の調査研究」研究代表者）に関しては、シンポジウム「戦後日本の写真史と文化運動 リアリズムのゆくえ」（2019. 3. 16 山形大学）のコーディネートと司会をつとめた。研究分担者となっている基盤研究B（16H03386）「占領期ローカルメディアに関する資料調査および総合的考察」について成果出版物掲載予定原稿を準備した。教育活動に関しては、担当授業は「近代文学の中の山形（山形から考える）」「日本文学基礎演習」（共担）他12科目（大学院含む）、卒論2名修論1名の指導にあたった。学部内の委員としては広報委員、PBL準備委員、副専攻、大学院運営委員、大学院将来構想部会等。他に委嘱された学外委員。また、大学が行っている朗読コンテストの予備審査をつとめた。研究教育両面でさまざまのご支援をいただいた関係者に感謝したい。

**諸田 博昭**

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）

学会報告

Hiroaki Morota, "Regional Credit Money and Banknote Issuance Agency System: Chinese Free Banking in the interwar period Reconsidered", Session 'Critical moments in the development of modern monetary systems: Crises, money doctors and reforms', 18th World Economic History Congress' Boston, 4th August 2018.

研究会報告

諸田博昭「20世紀前半期の中国における地域通貨と信用」、科研費プロジェクト「信用貨幣の生成と進化のメカニズムに関する歴史実証」研究会、早稲田大学、3月3日。

- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育、地域連携等の活動

担当科目：グローバル経済史Ⅰ、Ⅱ、グローバル経済史演習、グローバル経済史特別演習、アジア経済史、スタートアップセミナー、専門基礎演習

出張講義：大船渡高校にて10月18日に出張講義

(6) 研究・教育活動に関するコメント

授業初年度ということがあり、授業資料の作成や授業の進め方の試行錯誤に時間と労力を大きく割いた。そのため、研究活動の進展はいまひとつであったと感じている。次年度は、授業の改善はもちろんであるが、研究の一層の進展がある年度にできるように努力していきたい。

**安田 均**

- (1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

「企業内養成熟練と勤続昇給」東北学院大『経済学論集』191（2019. 3）

(3) 研究成果（学会発表）

「熟練養成と賃金制度」SGCIME 春季合宿研究会（大学セミナーハウス，2019. 3. 28）

(4) 研究成果（その他）

(5) 教育，地域連携等の活動

「教育」講義「経済原論」，「市場と組織」，「経済原論演習」，学部キャリア科目「地域社会論」，同「労働と生活」，大学院「社会文化システム特論」1回，東北学院大学「政治経済学 I,II」

出張講義「労働市場のはなし」（山形西高校，2018. 7. 25/いわき光洋高校，2018. 11. 15/山形中央高校，2018. 12. 5）

三大学合同ゼミへの参加（東北学院大学，2018. 7. 14/宮城学院女子大学，2018. 12. 8）

「地域」障害・高齢・求職者雇用支援機構山形支部運営協議会（会長，2018. 7. 24/2019. 3. 5），「経済指標の解説」連合山形『春闘パンフレット』（2019. 1）

(6) 研究・教育活動に関するコメント

2016年12月から2019年3月まで経済理論学会『季刊経済理論』の編集委員を務めるなかで，多様なテーマ，手法の研究に触れることができたのは勉強になった。今後の活動に活かしたい。

## 山口 昌樹

(1) 研究成果（著書）

Yamaguchi, Masaki, Is Japanese Regional Banks' Overseas Business in Emerging Markets Hopeful?: An Observation through X-means Clustering, in William A. Barnett, Bruno S. Sergi (ed.) Banking and Finance Issues in Emerging Markets (International Symposia in Economic Theory and Econometrics, Volume 25) Emerald Publishing Limited, pp.193-214, 2018

(2) 研究成果（論文）

Yamaguchi, Masaki, Are foreign banks in China homogenous? : Classification of their business patterns, Journal of Accounting, Business and Finance Research, 3(1), 10-17, 2018

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

### 研究ノート

- 山口昌樹、「地方銀行による国際業務への取り組み」『社会文化システム研究科紀要』、山形大学大学院社会文化システム研究科、第15号、2018年

### 寄稿

- 山口昌樹、「各行の海外展開に見る販路拡大・業務推進のヒント」『銀行実務』2018年5月号、7頁

### 学会討論者

- カオ ティ キャン ゲット氏（アジア太平洋研究所）「ベトナムにおける非正規金融の役割—中小企業の資金調達からの観点—」日本金融学会2018年度春季大会、2018年5月26日、専修大学生田キャンパス

メディア出演

- NHK ワールド・ラジオ日本、海外向けラジオニュースの「インサイト」、2018年5月1日
- (5) 教育、地域連携等の活動

教育

- 担当授業：基盤教育・基幹科目、金融論、国際金融論、くらしとマネー、国際金融論演習

国際交流

- 論文博士号取得希望者に対する支援事業（日本学術振興会）での指導協力者  
論博研究者－カザフスタン経営経済大学 Olga Pak 助教授

予定論文題目－Bank business models and financial stability in the Eurasian Economic Union's transition economies

2018年6月に九州大学にて論文指導

2019年3月に九州大学より博士（経済学）を取得

社会連携

- 科研費新学術領域「ソフトロボット学」× 山形大学 OPERA 「ソフトマターロボティクス  
コンソーシアム」合同シンポジウム、パネリスト、2019年3月20日、TKP ガーデンシティ  
PREMIUM 神保町

(6) 研究・教育活動に関するコメント

日本学術振興会の RONPAKU プロジェクトが大団円を迎えたことは何よりであった。科学技術振興機構の COI プロジェクトと OPERA プロジェクトにおける貢献のあり方に今年も頭を悩まされた。

山崎 彰

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）
- (4) 研究成果（その他）
- (5) 教育、地域連携等の活動

• 基盤教育

「スタートアップ・セミナー」、(教養科目)「近代ヨーロッパ国家の多様なかたち」「ヨーロッパ史について考える－文学との対話」

• 専門教育

「ヨーロッパ史概論」「ヨーロッパ史講義（二）」「ヨーロッパ史演習」「ヨーロッパ史英書講読（二）」「専門英語演習（歴史学）」「教職実践演習（社会）」「卒業論文」

• 大学院

「ドイツ史特論」

- 教員免許更新講習（ヨーロッパ史）の実施

(6) 研究・教育活動に関するコメント

科研費・基盤研究（c）「ブランデンブルク農村の市民的交流圏形成に関する研究」（17K01360）

## 山田 浩久

### (1) 研究成果（著書）

『東日本大震災と地理学』, 東北地理学会（共著）

『図説日本の島—76の魅力ある島々の営み—』, 朝倉書店（共著）

『読みたくなる「地図」国土編』, 海青社（共著）

『地域連携活動の実践—大学から発信する地方創生—』, 海青社（編著）

### (2) 研究成果（論文）

山田浩久（2019）「地域連携事業の望ましい方向性と教員の役割」. 山形大学紀要（人文科学）, 19-2, 1-14.

山田浩久（2019）「地域の自立的発展に必要なまちづくりの本質—山形県中山町を事例にして—」. 山形大学人文社会科学部年報, 15, 43-59.

山田浩久（2019）「東北地方の観光施策に必要な視点—地域連携活動の展開—」, 山形大学歴史・地理・人類学論集, 2号, 1-14.

### (3) 研究成果（学会発表）

山田浩久（2018）過疎地域の人口動態に見られる近年の特徴—新潟県粟島と山形県飛島の比較から—, 東北地理学会, 東北大学.

山田浩久（2018）進展する『観光の組織化』, 東北地理学会「東北の次世代観光交流」研究グループ第2回研究集会, シンポジウム「『観光の組織化』は東北をどう変えるか」, 青森市港湾文化交流施設 八甲田丸 大ホール.

### (4) 研究成果（その他）

### (5) 教育, 地域連携等の活動

担当授業

学部教育

- 人文地理学概論, 地域構造論, 地誌学, 地域構造論演習, 都市地理学調査実習, ツーリズム産業論, 総合講座1, 地域課題実践演習 A1

大学院教育

- 都市計画特論, 都市計画特別演習

高等学校への出張講義

- 上山明新館高等学校（演題：上市市のまちづくり）

きらやかマネジメントスクール

- 地域資源活用①

自治体職員講習

- 山形市定住自立圏地域計画講習講師

学外の審議会, 委員会

- 国土交通省, 東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会委員
- 山形市中心市街地活性化戦略本部部員
- 山形市都市計画マスタープラン見直しに係る研究会委員
- 山形市にぎわい拠点整備事業審査委員会委員長

- 山辺町総合戦略有識者会議議長
- 長井市まちづくり基金審査委員会委員
- 山形県立上山明新館高等学校学校評議委員
- 日本地理学会代議員
- 経済地理学会北東支部支部幹事
- 東北地理学会編集委員会委員

(6) 研究・教育活動に関するコメント

平成28年度に採用された科研費挑戦的萌芽研究（課題番号：16K13295，研究代表者：山田浩久）においては，27年度に行った研究を論文にまとめて公表し，より広域の視点から，震災の人的被害が都市再編に与える影響に関する研究を開始した。また，新たに平成30年度に採用された科研費基盤研究(B)（課題番号：18H03457，研究代表者：山田浩久）では，東北地理学会「東北の次世代観光交流」研究グループ（代表者：山田浩久）の第2回研究集会を開催し，年度末にはこれまでの活動成果を『地域連携活動の実践—大学から発信する地方創生—』にまとめ公表した。地域連携に関しては，国土交通省の東北ブロック地理空間情報産学官地域連携協議会委員を務めるほか，山形市の都市計画，山辺町の総合戦略に関わる活動に参加した。

**山本 睦**

- (1) 研究成果（著書）
- (2) 研究成果（論文）
- (3) 研究成果（学会発表）

Atsushi Yamamoto

2018 “Estudios de la dinámica cultural para el Desarrollo en las fronteras en la época prehispánica”. I Congreso Mundial y II Jornada Nacional e Internacional de Investigación Científica. Auditorio Colegio La Asunción, Trujillo, Perú. 2018年10月5日

2018 “Emergencia de la complejidad sociopolítica en el norte de Perú: Una perspectiva diacrónica del valle de Huancabamba, vertiente oriental de los Andes”. XXVI Congreso Nacional de Estudiantes de Arqueología. Universidad Nacional Pedro Ruiz Gallo, Lambayeque, Perú. 2018年9月19日

2018 “La Ventilla: Cronología y función”. III Simposio de Arqueología: Avances de las Investigaciones de las Misiones Italiana y Japonesa. Museo Didactico Antonini, Nasca, Perú. 2018年8月25日

2018 “Investigaciones en el sitio arqueológico Inyatambo y el valle de Huancabamba, Jaén”. Ira Jornada de Investigaciones Arqueológicas en la región Cajamarca. Ministerio de Cultura, Cajamarca, Perú. 2018年8月15日

2018 “Emergence of sociopolitical complexity in Northern Peru: A diachronic perspective from the Huancabamba Valley”. 83rd Annual Meeting, Society for American Archaeology, Washington Marriott Wardman Park, Washington, DC. 2018年4月13日

- (4) 研究成果（その他）

Atsushi Yamamoto, José Peña Martínez y Marina Ramírez Santillana

2018 Inгатambo, un Centro Ceremonial en el Valle de Huancabamba, Pomahuaca, Jaén. Jaén; En Arqueología y Turismo. Quirino Olivera (ed). p.135-143. Yanapay Andina Consultores y Municipaliad Provincial de Jaén.

Rojas Guerrero, Johanna y Atsushi Yamamoto

2018 Informe del Proyecto de Investigación Arqueológica Rutas de Interrelación Pampa Galeras - Bahía de San Fernando, Perú. Ministerio de Cultura, Perú.

山本陸

2018 「歩いて、掘って、よむ」『Field+ : フィールドプラス : 世界を感応する雑誌』19 : 16-17. 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所。

(5) 教育, 地域連携等の活動

[担当授業] 人類学・アンデス考古学特論 V、人類学・アンデス考古学特別演習 III、プロジェクト演習 V

(6) 研究・教育活動に関するコメント

「アンデス比較文明論」(科学研究費補助金・新学術領域研究)によって、ペルー南部ナスカ台地周辺において、現地調査を実施した。また、「神殿をめぐる活動と地域間交流の相関からみたアンデス文明形成期の社会動態」(科学研究費補助金・若手 A)によって、ペルー北部カハマルカ県で考古学調査に従事した。

本年度はナスカ研究所に勤務し、入試および大学院関係の業務をおこないながら、講義や研究指導などの教育活動を実施した。

## 吉原 元子

(1) 研究成果 (著書)

(2) 研究成果 (論文)

「産地の縮小過程における中小企業の内製化志向」『日本中小企業学会論集37』同友館、2018年7月

「山形県におけるニット産業の新展開」山形県経済社会研究所『山形県の社会経済・2018年』第31号、2018年12月

(3) 研究成果 (学会発表)

(4) 研究成果 (その他)

「インターンシップの失敗 ケース解説 (人間心理)」キャリアクリエイティブ『LD ノート』2019年1月1日号

(5) 教育, 地域連携等の活動

[教育]

中小企業論 a・b、中小企業論演習、企業課題解決型実践演習 a (コヤマ)、企業課題解決型実践演習 a (トヨタカローラ)、山形から考える地域産業 (山形から考える)、公務員対策セミナー (論作文)、総合講座Ⅲ世話人、中小企業論特論

[地域連携等]

山形県国民健康保険運営協議会委員、山形県建築審査会委員、山形県農業・農村政策審議会委

員、山形県ベストアグリ賞表彰事業審査員、山形県未来の産業研究会メンバー、全国中小企業団体中央会組合資料収集加工事業調査研究委員会委員、山形県中小企業団体中央会平成30年度取引力強化推進事業に係る選考委員、一般財団法人商工総合研究所中小企業組織活動懸賞レポート審査委員、きらやか銀行新規事業進出支援研修会講師(2018年9月4日)、きらやかマネジメントスクール第2回講師(2018年10月12日)、山形県若者就職支援センター「県内企業のここがすごい!」セミナー講師(2018年12月18日)、山形北高校出張講義(2018年6月14日)、山形大学附属中学校総合学習 LIVE コメンテーター(2019年1月31日)

(6) 研究・教育活動に関するコメント

昨年度から引き続き、村山総合支庁から「キラリと光る村山の企業・技術情報発信事業」を受託し、県内企業30社を訪問してフェイスブックに記事132本を掲載した。そのつながりもあって授業内にて中小企業経営者と学生の座談会を行う機会に恵まれた。また、正指導教員として修士論文作成の指導を行った。

**渡辺 文生**

(1) 研究成果(著書)

(2) 研究成果(論文)

渡辺文生(2018)「ノートの筆記過程をもとに分析する講義の談話の理解」『2018 CAJLE Annual Conference Proceedings』pp. 307-316. カナダ日本語教育振興会

(3) 研究成果(学会発表)

渡辺文生「ノートの筆記過程をもとに分析する講義の談話の理解」2018 CAJLE Annual Conference, Huron University College, London, Ontario, Canada 2018.08.21-22

渡辺文生「メタ言語表現はノート記述のきっかけになっているかー日本語母語話者と学習者のケーススタディー」第8回談話分析コロキウム, 山形テルサ, 2018.12.22

(4) 研究成果(その他)

(5) 教育、地域連携等の活動

担当授業は、日本語学基礎演習 a, 日本語文法特殊講義 a, 日本語文法演習(前期), 日本語 b, 日本語文法演習(後期), 日本語文法概論, 日本言語文化論《以上学部専門科目》, 日本語意味論特論 I, 日本語意味論特別演習, 特別研究《以上大学院科目》, スタートアップセミナー, 日本語上級 2「書く」《以上基盤教育科目》。地域貢献等の活動としては、大学説明会・宇都宮(2018.07.05), アカデミック・インターンシップ(2018.08.02-03), オープンキャンパス コース説明会(2018.08.04)などを行った。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

研究活動については、研究代表者として関わる基盤(C)の科学研究費プロジェクトの研究を中心に学会発表等を行った。そのほか、2件の科学研究費プロジェクトに研究分担者として従事した。教育活動については、日本語学の卒業論文1名の主指導・3名の副指導、および修士論文5名の副指導を行った。

**渡辺 将尚**

(1) 研究成果（著書）

(2) 研究成果（論文）

「アジア的」、「好戦的」、「男性的」なナチズム—「歴史家論争」の再検討—（『ドイツ文学論集』第51号，2018年9月，39～53ページ）

(3) 研究成果（学会発表）

(4) 研究成果（その他）

シンポジウム「ロマン主義の伝染力（ヴァイラリティ）」コーディネーター（『日本比較文学会2018年度東北支部大会』，2018年12月1日，於：ゆうキャンパスステーション）

(5) 教育，地域連携等の活動

2018年度「優秀教育者」として学長より表彰を受けた。

(6) 研究・教育活動に関するコメント

顧問を務める「山形大学空手道部」が，2018年11月に大阪にて開催された「全国国公立大学空手道選手権大会」で初の団体優勝を果たした。また，そのような成果を収めるに至った日頃の活動が評価され，2019年2月学長より「学生表彰」を受けた。